

明治四十四年十月二十五日發行

十全會雜誌

第十六號

全澤醫藥專門學校十全會

十全會雜誌第六十九號目次

○原著及實驗

- 外男性假性半陰陽ノ一例。
- 米粉養兒ノ病的變化。

石橋 四郎
岡本 京太郎

○抄 錄

- 睫毛倒症ノ自家手術式。
- 胃液分泌ノ鑽泉治用。
- 鬱憂病ノ本態。
- 三日目毎ニ發作セル脊髓癆性幻覺病。
- 神經原纖維。
- 中樞性顔面神經麻痺ノ三例。

大澤 五月
佐々木 達
松原 三郎
全 上
全 上
全 上

○漫 錄

- 清國浙江省醫事概況。
- 日本の醫者と獨逸の醫者。
- 英國に於ける醫育。

韓 清泉
不曲堂主人
隈 川 基

○通 信

- 鈴木寛之助氏。
- 辻本辰之助氏。
- 山岸岳氏。
- 春山盛道氏。

○外國雜報

●「スベロヘーテ」の純培養。 ●獨乙大學の學生數。 ●組織細胞の体外培養。 ●維納癌研究會。 ●グラウツツ氏逝去。 ●「クロロホルム」麻醉創始者の百週年。

○醫校雜報

●醫學校卒業業者。

○叙任及辭令

●内閣。 ●陸軍省。 ●海軍省。 ●石川縣。

○人 事

●猪木彦助氏。 ●乾一夫氏。 ●山崎太一氏。 ●駒田一正氏。 ●那谷與一氏。 ●居所不明會員名簿。

○會 告

●校外特別會員會費領收調書。

* * * * *

孤 錄

●睫毛倒生症ニ對スル自案手術式

(第三回日本醫學會眼科學部) 大澤 正月 (三年)

五%コカイン」液ト、二%同液トヲ交互ニ五六滴點眼シ、一萬倍ノ昇汞水及滅菌鹽水ニテ眼圍及結膜囊ヲ洗滌シ、上眼瞼皮下ニシユライヒ液一筒ヲ注射シ、眼瞼翻轉、軟骨刀ヲ以テ軟骨裏面ニ於ケル軟骨彎曲線ニ瞼緣ニ沿ヒ横切ヲ施シ、深ク筋層ニ達セシメ、次テ眼瞼ヲ正位ニ復シ、瞼緣ヨリ、三密迷上方ニ於テ緣ニ竝行シ、横切ヲナシ、更ニ之レヨリ上方四、五密迷ノ部ニ於テ下創緣ニ竝行シ横切開ヲナシ、兩端ハ之ヲ彎曲セシメ下創端ト連合シ、剪刀ヲ以テ半月狀皮瓣ヲ切除シ、助手ヲシテ皮創ヲ更ニ上下ニ開大セシメ、有鉤鑷子ニテ筋層ヲ撮ミ上げ、更ニ剪刀ヲ以テ卵圓形ニ可成廣ク切除シ、下創緣外角ニ針ヲ刺入シ、筋層上創緣ヲ下方ヨリ揃ヒ縫ヒシ、下創内角ヲ穿通シ、更ニ創上軟骨上部ニ裏面ニ刺出シ、二密迷下方ニ於テ軟骨裏面ヨリ刺出シテ、終リニ上創皮膚緣ヲ下方ヨリ刺出シ、之ヲ緊メ結合ス、此ノ如ク中央左右ノ三箇所ニ於テ施シ、其中間ハ二三單ニ皮膚ノミヲ縫合シ、手術ヲ終ル、後四五日ニシテ絲ヲ拔去ス

●胃液分泌ニ對スル鑛泉作用ノ

試験的比較研究

Experimentelle vergleichende Versuche über die Wirkung der verschiedenen Brunnenvässer auf die Magensecretion.

(全上内科學部)

佐々木 達

本日此問題ノ下ニ御話スルコトハ日本ノ鑛泉ノ語デハナク、數年前獨逸ニ於テ歐洲ノ有名ナル諸種ノ鑛泉ニ就テ比較研究ヲ致シタルコトヲ御紹介致サウト思フノデアリマス
勿論此報告ハ二三ノ日本ノ醫學雜誌ニモ已ニ抄録サレテ居リマスガ、十分ニ意味ヲ盡シテ居リマセヌノト、又近頃日本ニ於テモ鑛泉ノ研究ガ始マツタ様デアリマスルカラ、多少御參考ニナロウト思テ御話スルコト、ナツタ次第デアリマス

吾日本ニハ御存知ノ如ク各府縣ニ幾百ト云フ多數ノ鑛泉ガアツテ、種々治療上ニ應用サレテ居リマスガ、一トシテ確固タル根據ノアルモノハナイ様ニ思ハレマス從來吾日本ニハ鑛泉作用ヲ研究シタ者ノナキコトハ勿論ノコト、其化學的分析ニ至リテモ十分ニ信用ノ出來ナイモノガアル様ニ思ハレマス、又適應症記載ノ如キモ、毫モ治療上ニ經驗ナキ者力證明シテ居リマス、從テ其用法適應症ノ如キハ不完全ナル化學的分析表ヲ基礎トシテ原書其儘ニ翻譯の定メテアリマス、然ルニ其本家ノ西洋ニ於テモ其適應症ガ未ダ十分ニ定テ居ラヌノデアリマス、故ニ現今ノ日本ノ鑛泉療法ハ危險千萬ト云ハザルヲ得ズ、反テ其適用ハ古來ノ口傳ニ從フヲ便トス

胃病ノ鑛泉療法ハ日本ニ於テモ、西洋ニ於テモ其歴史ハ已ニ甚ダ古シ、從テ西洋ノ Literature ヲ見ルニ實ニ無數ナリ、然レドモ、其効力ノ種類ニ至リテハ朝令暮改ニシテ、未ダ決定スルニ至ラズ、近世ノ醫學上ニ價值アル

モノ甚ダ少シ、多クハ古來ノ經驗ヲ基礎トシタルモノナリ、近クハ Penzance-Stirlingノ治療學、Boasノ胃病學又 Ewaldノ獨逸內科學會ノ報告ノ如キ各々其所論ヲ異ニス由テ以テ此礦泉學ノ基礎ガ未ダ確實ナラザルコトヲ知ルニ足ルモノトス

斯ノ如ク議論ノ一致セザル理由ハ、一方ニハ單純ノ經驗若クハ化學的分析ノミヲ基礎トシテ其適用ヲ定メタルコト、一方ニハ此礦泉作用研究ノ方法ガ未ダ完全ナラザリシニ基クモノトス、漸ク近世ニ至リ Parlowガ完全ナル胃液分泌ノ研究法ヲ公ニシテ以來、始メテ此礦泉ノ胃液分泌作用ヲ完全ニ研究シ得ルニ至レリ

吾北陸地方ハ元來礦泉ノ多數ナル國ナリ、故ニ從來此礦泉研究ノ希望ヲ有セシモ、經費ト時間ノ關係上機會ヲ得ザリシ、然ルニ幸ニモ前年獨逸留學中伯林大學ノ病理學教室ニ於テ、歐洲有名ノ礦泉ノ胃液分泌作用ヲ研究スル機會ニ遭遇セリ、蓋シ獨逸ニ於テモ其當時迄未ダ完全ナル研究ナク、此伯林大學病理學教室ノ計畫ハ完全ナル研究ノ嚆矢ト云テ可ナリ

其研究ノ方法ハ試驗的病理學ヲ基礎トシ、大ニ就テ二種ノ試驗ヲ行ヒ、尙ホ人類ニ就テモ同一ノ試驗ヲ舉行シ、成績ヲ比較シ、其結果ヲ一致セシムルコトヲ得タリ

二種ノ試驗トハ一ハ Parlowノ創意ニ出テタル所謂小胃試驗ニシテ、胃ヲ胃底ニ於テ二分シ其小ナル胃底ノ胃部ヲ腹壁ニ縫合シ、人工胃液ヲ造リタルモノ、他モ亦均シク同氏ノ創意ニ基ク所謂擬食試驗ニシテ、普通ノ人工胃液ト食道瘻孔ヲ造リタルモノナリ、余ハ此第二ノ擬食試驗ヲ受持テリ、試驗ノ方法ハ先ヅ犬ニ普通ノ人工胃液ヲ造リ、其治療ヲ待テ食道ヲ切斷シ、其上端ヲ以テ食道瘻孔ヲ造レリ、而シテ犬ノ營養物ハ人工胃液ヨリ送レリ、試驗時ニハ此犬ノ胃ヲ洗滌シテ清潔空虛トナシ、此胃中ニ可檢液體三〇〇立方仙迷ヲ入レ十五時間作用セシメタル後之レヲ排除シ、棉花ヲ以テ輕ク拭ヒ、以テ可檢液體ノ尙ホ殘留セザルコトヲ確メ、次テ此ノ犬ニ五分時間

肉ヲ食セシム、然ルトキハ此肉ハ盡ク食道瘻孔ヨリ出デ、毫モ胃中ニ達セズ、然ルニ胃粘膜ハ反射的ニ興奮シ、分泌ヲ始メ、胃液ハ瘻孔ヨリ流出ス、此胃液ヲ五分時間宛分集シ、其分泌量、總酸及鹽酸量並ニ蛋白質消化力ヲ檢セリ

可檢液ハ歐洲ニ有名ナル六種ノ礦泉ヲ採用シ、此六種礦泉ノ胃粘膜ニ對スル作用ヲ相互ニ比較シ、且一方ニ於テハ普通ノ水ノ作用ト比較セリ

何レノ可檢液體試驗ニ於テモ上述ノ方法ト同一ノ擬食試驗法ヲ行ヒ、且試驗動物モ何レノ試驗ニ於テモ同一ノ條件ノ下ニ置ケリ

各種可檢液體試驗ハ同一動物ニ就テ行ヒ、數回同一試驗ヲ反復セリ、故ニ茲ニ現ハル、成績即チ胃液分泌ノ變動ハ、各種可檢液體ノ胃粘膜ニ對スル作用ノ異同ニ求ムルノ外ナシ

又一日中ニ重複試驗ヲ行ヘリ、例之バ礦泉作用試驗ニ次テ水ノ試驗ヲ行ヒ、水ノ作用試驗ヲ先キニシ、礦泉作用試驗ヲ後ニスルガ如シ、是レ蓋シ試驗時間ノ前後ト時日ノ異ナルニ從テ、變動ヲ生ズルヤ否ヲ檢センガ爲メナリ、試驗ニ採用シタル礦泉ノ種類ハ、從來主トシテ胃病ニ應用セラル、次ノ六種ナリ

一、炭酸泉 其代表者トシテ Apollinaris 鐵礦水(有馬)ノ類

二、食鹽水 其代表者トシテ Wiesbaden-kochbrunnen 有馬、和倉、熱海ノ類

三、亞爾加里食鹽泉 其代表者トシテ Pansenwasser, Selet's water 新潟(有馬)、阿會(伊勢)鐵泉類

四、亞爾加里芒硝泉 其代表者トシテ Karlsbaderwasser 伊香保礦泉ノ類

五、單純亞爾加里泉 其代表者トシテ Vichywater 平野(攝津)、山代加賀、鐵泉ノ類

六、苦動泉 其代表者トシテ Eynyedi-Janus 大ヶ所(伊勢)鐵泉ノ類
以上ノ礦泉試驗ノ成績ハ別表ニ掲グルガ如シ、而シテ此表ハ可檢液體ノ作

用ニ基ク分泌量ナリ此表ヲ一見スレバ可檢液體ノ胃液分泌ニ對スル作用ハ一目瞭然タリ、殊ニ其分泌量ガ鹽泉ノ種類ノ異ナルニ從テ、著明ノ差アル點ナリ、然レドモ酸ノ%ハ大差ナク、其消化力ニモ著明ナル差ヲ發見スルコト能ハズ

要スルニ、各種鹽泉ハ胃液分泌量ヲ變化セシムルモ、其分泌物ノ性狀ニハ變化ヲ呈セザルコト知レリ、又普通ノ水ト雖モ胃液分泌ニ影響ヲ與ヘザルモノニアラズシテ、均シク輕度ノ分泌作用ヲ有ス

分泌ヲ促進スル鹽泉ハ炭酸泉・食鹽泉及亞爾加里食鹽泉ナリ、殊ニ第一及第三ハ急劇ニ分泌ヲ促進ス

分泌ヲ抑制スル鹽泉ハ、亞爾加里、芒硝泉、亞爾加里泉及苦土泉ナリ、殊ニ著明ナルハ苦土泉トス、之ニ次デ亞爾加里泉ナリ、獨リ「カル、ス」泉ニ至リテハ每常斯ノ如ク著明ナル抑制作用ヲ呈セズ、促進ト抑制ト殆ンド中間ニ位スルコト往々アリ

各種鹽泉ノ作用ニ斯ノ如キ差違ヲ生ズル所以ハ、其含有化學的有効成分ノ異ナルニ基クモノトス、其化學的有効成分ノ差異ハ次ノ如シ

一、炭酸泉ハ多量ノ遊離炭酸ヲ含有シ、其他ノ固形分ハ極メテ少量ニシテ、胃粘膜ニ作用スベキ程度ニ達セズ

二、食鹽泉ハ主トシテ食鹽ヲ含有シ、或ハ之レト共ニ重碳酸「ナトリウム」及芒硝ノ有効量ヲ含有ス、其食鹽ハ一・五%以下ナリ、(Kochbrunnenハ食鹽〇・四%重曹〇・一%芒硝〇・〇一%)

三、亞爾加里食鹽泉ハ主トシテ重碳酸鈣ヲ含有シ(〇・一%以上)之ト共ニ少量ノ食鹽(〇・一%以下及多量ノ炭酸ヲ含有ス、(Caldes 鹽酸〇・二%重曹〇・一四%炭酸〇・二二%鹽酸〇・一%重曹〇・二%炭酸〇・一%)

四、亞爾加里芒硝泉ハ主トシテ硫酸「ナトリウム」ヲ含有シ、尙ホ食鹽ト重曹ノ有効量ヲ含有ス、(各〇・一%以上)「カル、ス」泉ハ硫那〇・二四%重曹〇・一二%食鹽〇・一%)

五、亞爾加里泉ハ重曹ト炭酸ヲ含有ス、但シ兩者共少量ナリ(重曹〇・一%以上)

六、苦土泉ハ主トシテ多量ノ硫酸「マグネシヤ」ヲ含有シ(〇・五%以上)尙ホ稍々大量ノ食鹽ト芒硝ヲ含有ス、(各一%以上)(Humyadi-Junoc 硫麻一・六%硫那一・五%食鹽)

以上各種鹽泉ヲ試驗ニ供シタル結果トシテ、其各鹽泉中ニ含有スル各有効成分ノ胃液分泌作用ハ次ノ如クナルコトヲ發見セリ

一、炭酸ハ胃液分泌ヲ促進シ、且同時ニ其分泌量ヲ増加ス、是ハ Penzoldt 及 Wiedemann 臨牀的試驗ニ一致ス、故ニ凡テ遊離炭酸ニ富ム鹽泉ハ分泌促進作用ヲ有ス

二、鹽類ノ作用ハ此炭酸ノ作用ニ合スルヲ普通トス、然ルニ此鹽類中ニハ炭酸ト同一種ノ作用ヲ有スルモノアリ、或ハ反對ノ作用ヲ有スルモノアリ、從ツテ其鹽類ノ作用ハ當該鹽泉中ノ主成分及副成分ノ種類ニ從テ差リ、故ニ一種ノ鹽泉中ノ鹽類ノ作用ハ諸種鹽類作用ノ合併ニ由リ起リ、其鹽泉中ニ存在スル混合鹽類ノ最後ノ作用ハ、諸種ノ同種若クハ異種作用ヲ平均シタル結果ナリ

斯ク協同的ニ作用スル諸種鹽泉中ノ鹽類中最モ必要ナル鹽類ハ、食鹽、硫酸「ナトリウム」、重碳酸「ナトリウム」及硫酸「マグネシヤ」ナリ、重碳酸「ナトリウム」、硫酸「ナトリウム」及硫酸「マグネシヤ」ノ稀薄溶液ハ胃液分泌ヲ抑制ス、故ニ是等ノ物質ヲ含有スル所ノ鹽泉ハ、胃液ノ分泌ヲ促進スルコトナシ

食鹽ノ稀薄溶液ハ胃液分泌ヲ促進ス、故ニ食鹽ヲ含有スル鹽泉ハ胃液分泌促進作用ヲ有ス、唯食鹽ノ濃厚溶液ハ胃液分泌ヲ抑制ス、然レドモ上述鹽泉中ニハ斯ノ如キ濃厚ノ食鹽ヲ含有スルモノナシ

以上ノ關係ヲ基礎トシ、可檢鹽泉ノ作用ヲ説明スルコト次ノ如シ
一、炭酸泉ハ多量ノ遊離炭酸ヲ含有スル外ニハ極メテ少量ノ鹽類ヲ含有ス

ルニ過ギザルガ故ニ、其作用モ亦殆ンド皆炭酸ノ作用ニシテ、胃液分泌作用ヲ促進ス

二、食鹽泉ハ其主成分タル食鹽ノ作用ニ由テ分泌ヲ促進ス、從來食鹽泉ハ分泌ヲ抑制スルモノト信ゼリ、然ルニ此成績ニ由テ反テ促進作用ヲ有スルコトヲ證明セリ、其他ノ有効成分タル重曹及芒硝ハ少量ナルガ故ニ、食鹽ノ爲メニ平均スルモノナラン

三、亞爾加里食鹽泉ハ胃液分泌ヲ促進ス、其作用ハ或ハ食鹽泉ニ類似シ、或ハ炭酸泉ニ類似ス、是蓋シ重炭酸「ナトリウム」ト食鹽ノ作用ガ互ニ平均シ、殘餘ノ炭酸作用ニ由テ促進スルカ、或ハ食鹽ガ重炭酸「ナトリウム」ヨリ多キトキハ食鹽泉ノ作用ニ一致スルモノナラン

以上三種ノ礦泉ハ同一ノ作用ヲ有シ、何レモ分泌ヲ促進スルモノナリ、故ニ之ヲ單純ノ水ノ作用ト比較スルニ、分泌抑制ノ作用ハ毫モ見ルコト能ハズ

亞爾加里芒硝泉、單純亞爾加里及苦土泉ノ三種ニハ、胃液分泌促進作用ヲ見ルコト能ハズ

一、亞爾加里芒硝泉ノ代表者トシテ採用シタル「カル、ス」泉ノ作用ト水ノ對照試驗ヲ比較スルニ、何レノ試驗ニ於テモ胃液分泌促進作用ヲ見ルコト能ハズ、是レ其主成分タル硫酸「ナトリウム」ノ作用ニシテ、食鹽ト重曹ノ作用ハ平均セラレ、モノナラン

二、單純亞爾加里泉モ亦前者ト均シク分泌抑制作用ヲ有シ、純粹ノ「アルカリ」作用ヲ現ハスコトナシ、是レ恐クハ重曹ト他ノ鹽類若クハ炭酸ノ對抗作用ニ基クモノナラン

三、苦土泉モ亦胃液分泌ヲ抑制ス、是レ硫酸「マグネシヤ」ト芒硝ノ抑制作用ニ基クモノナリ、其他ノ芒硝ト食鹽ノ作用ハ平均スルモノナラン

結論

一、以上ノ成績ハ清潔ニ採取シタル分泌胃液ノ試驗ニ基クガ故ニ、從來ノ

試驗ニ比シ誤リ少ク、從テ特別ノ證明力ヲ有スルモノト信ズ

二、斯ノ如キ精密ナル試驗ハ普通ノ胃液採取法ニ望ムコト能ハズ、普通ノ胃液採取法ハ誤リヲ生ジ易シ、是レ即チ今日迄學者ノ誤ノ一致セザル所以ナリ

三、此試驗ニ由テ諸種ノ誤解ヲ明ニシ、又諸種ノ反對說ヲ了解セシメ、Literatur 上一致セザル學者ノ說ハ一方ニハ決定ヲ與ヘ、一方ニハ改良セラレタルモノナリ

四、此試驗ニ由テ實地上ニ利益ヲ與フルコトモ亦少カラズ、吾人ハ患者ヨリ礦泉ノ指定ヲ望マル、コト多シ、然ルニ其生理的作用判然セザルガ爲メ、單ニ從來ノ經驗ニ一任シ來レリ、故ニ失敗ヲ招クコト往々アリ、然ルニ此試驗ノ結果ニ基テ指定スレバ、恐クハ此失敗ヲ減セン

特ニ胃病ノ方面ヨリ觀察スレバ、例之實質の胃病若クハ慢性胃加答兒ニシテ、鹽酸ノ缺如スルモノニハ、胃液分泌ヲ促進スル礦泉、即チ炭酸泉、食鹽泉若クハ亞爾加里食鹽泉ヲ適用シ、之レニ反モテ胃酸過多症若クハ分泌過多症ニハ胃液分泌ヲ抑制スル礦泉即チ亞爾加里泉、亞爾加里芒硝泉若クハ苦土泉ヲ適用スレバ足レリ
要スルニ此試驗ハ礦泉療法ノ適用ヲ明ニシ、治療ノ結果ヲ過ラシメザルモノトス（表畧ス）

鬱憂病ノ本能

（全上神經及精神病學部） 醫學博士 松原三郎

以前クラフトエービング氏等ハ精神病中ニテ愉快ニ興奮スル躁病(Mania)ト悲哀ニ沈鬱スル鬱憂病(Melancholia)トハ其症狀ガ正反對ナルガ故ニ、其病ノ本態モ各々正反對ニ相異レル二種ノ精神病ナリト考ヘ、其病症ノ輕症ナルト重症ナルトニヨリテ、躁病ヲ二種ニ分類シ、又鬱憂病ヲモ二種或

ハ三種ニ分類セリ、即チ患者が單純ニ鬱憂スルノミニシテ、他ニ著シキ病症ナキモノヲ單純性鬱病(Melancholia simplex)ト云ヒ、尙ホ進ンテ患者が呆然自失恰モ昏迷様ニ陥リ、自ラ談話シ、或ハ自ラ身體ヲ動かカスコトモ艱キモノアリ、之ヲ昏迷性鬱憂病ト名ケタリ、尙ホ進ンテ患者ハ終ニハ鬱憂ノ極一種ノ煩悶ヲ惹起シ、爲メニ患者ハ著シキ不安状態トナリ、激越状態 Aetiation ヲ起シ、爲メニ平素靜カニ沈鬱セル患者が忽然物品ヲ破壊シ、自己ヲ傷クルニ至ル、此種類ヲ激越性鬱憂病(Melancholia agitata)ト名ケタリ

然ルニ后チクレベリン氏ハ此正反對ノ症狀ヲ發スル鬱病ヲ發揚スル躁病ト同一ノ精神病ニ屬スルモノト見做シテ、之ニ躁鬱病 Manisch-depressives Irresein ト云フ名ヲ與ヘタリ、而シテ同氏ハ別ニ單一ノ發作タル普通ノ鬱病ト、又數回同様ノ鬱憂症狀ヲ發作スル定期性鬱病(Periodische Melancholie)又ハ其發作中却テ躁病ヲモ發作スルコトアル回歸性、或ハ循環性精神病(Chronisches Irresein)ノ鬱憂性發作トノ間ニ差異アルコトナク、悉ク同様ノ症狀ヲ呈スルガ故ニ、其發作中ニ之ヲ診スルモ其鬱憂ガ果シテ一回ノミノ發作ニテ終ル鬱憂ナリヤ、或ハ數回同様ノ鬱憂發作ノミヲ發スル精神病ナリヤ、或ハ後日ニ躁病ヲ續發スル種類ノ精神病の鬱憂ナルヤヲ區別スルコト不可能ナリト云ヘリ、其他同氏ハ激越性鬱憂病ノ大部分、女子ノ月經閉止期、或ハ男子ノ之ニ相當スル更年期ノミニ發作スルモノト考ヘ、此種類ノモノ、ミチ單ニ鬱憂病ト名ケ、或ハ退行期鬱憂病ト名ケタリ、故ニクレベリン氏ハ以前入ノ唱ヘシ普通ノ鬱憂病ヲ躁鬱病ノ鬱憂發作ト名ケ特ニ一小部分タル激越性鬱憂病ノミチ單ニ鬱憂病ト名ケ、後者ニハ將來躁病ヲ發作スルコトナキモノト斷定シタリ、然ルニ近來クレベリン氏ハ其持說ヲ放棄シテ、是迄ニ更年期鬱憂病ト診斷セル患者中ニモ後日ニ至リテ前者ノ如ク又躁病ヲ發作スル者多シト云ヒ爲メニ此更年期鬱憂病ヲモ更ニ躁鬱病中ニ編ハスルニ至レリ、從テ單純ニ獨立スル鬱憂病ハ存在セザルニ至

レリ

余ノ考フル所ニ依レバ、クレベリン氏ノ所論ト意見ヲ異ニシテ、總テ鬱憂ガ主徵候タルモノヲ悉ク鬱憂病ト命名セントス、而シテ之レニ加フルニ考慮抑制及身體運動抑制ハ敢テ必發ノ病狀ニアラズ、而シテ余ハ鬱憂患者ニ就テ他覺的ニ其精神運動ノ抑制症狀アルヤ、否ヤヲ檢シ、例ヘバ患者ノ談話、動作、運動等ガ遲徐タルヤ、否ヤヲ檢シ、加之尙患者自身ガ如何ニ自己ノ精神作業能力ヲ自覺スルヤヲ檢スルヲ必要ト自信ス、何ントナレバ、アル患者ハ頻リニ自己ノ精神作業能力ガ缺乏或ハ遲徐トナレリト自覺シ、他覺的ニモ實際患者ノ訴フル通りナルモノアリ、或ハ患者ハ頻リニ同症狀ヲ訴フルトモ、實際吾人ノ他覺的ニハ毫モ患者ノ觀念聯合上ニ遲滯ナク、又運動談話モ遲滯セザルモノアリ、或ハ患者自己モ之ヲ自覺セズ、又他覺的ニモ存在セザルモノアリ、此立脚點ヨリ鬱憂患者ヲ左ノ如ク分類セントスルノ私見ヲ懷クニ至レリ

第一、自覺的及他覺的ニ精神運動ノ抑制ヲ有スル鬱憂 (Depressionszustände mit den subjectiven und objectiven psychomotorischen Hemmungserscheinungen) 此種類ノモノハ後日躁病ヲ間發スルコト多シ故ニ此種類ノ鬱憂病ノミチ余ハクレベリン氏ノ躁鬱病ノ鬱憂發作中ニ編入シ、其他ハ以下總テ之レニ編入セザルヲ可トスト信ズ

第二、自覺的及他覺的ニ精神運動ノ不安(煩悶)ヲ有スル鬱憂病 (Depressionszustände mit den subjectiven und objectiven psychomotorischen Erregungserscheinungen) 此ノ種類ノモノハ以前ニクレベリン氏ハ更年期鬱憂病ト唱ヘタルモノナリ、然レドモ敢テ獨リ更年期ノミニ止マラズ、若年者ニモ發顯スルヲアルガ故ニ此名稱ハ不適當ナリ、而シテ實際此種類ニ屬スルモノハ、後日躁病ヲ間發スルコトナシト自信ス

第三、自覺的及他覺的ニ精神運動ノ障礙ナキ鬱憂病 Depressionszustände ohne subjective und objective psychomotorische Störungen

【Erregungen und Hemmungen】患者鬱憂状態が劇シキニモ拘ハラズ、敢テ其ノ精神運動ニ抑制モナク、又不安興奮モナクシテ、鬱憂發作ノ全經過ヲ終ルモノナリ、多數學者ノ所謂單純性鬱憂病(Melancholia simplex)ト異ナルモノナリ、之ヲ三種ニ區別ス

A、幻覺性單純性鬱憂病 (Halluzinatorische einfache Depressionszustände) 鬱憂病ノ全經過中ニ精神運動障礙ナクシテ、幻覺が主徴候トナリ、幻覺ノ消失ト共ニ鬱憂病モ治癒スルモノニシテ、早發癡病ト似テ非ナルモノナリ

B、妄想性單純性鬱憂病 (Paranoide einfache Depressionszustände) 卑屈性、罪業性或ハ被害性妄想ト鬱憂症トナ主徴トスルモノニシテ、妄想ノ消失ト共ニ鬱憂モ治癒スルモノナリ

C、單純性鬱憂病 (Einfache Depressionszustände) ハ單純性鬱憂病ニシテ、敢テ幻覺モナク、又妄想モ著シカラザルモノヲ云フ

第四、自覺的精神運動抑制アルモ、他覺的ニハ同症ノナキ鬱憂病(Depressionszustände mit den subjectiven psychomotorischen Hemmungen, aber ohne die objectiven Hemmungen) ハ患者自身ニ頻リニ精神運動ノ抑制的障礙アルコトヲ訴ヘテ止マザルモ、其語ル所ノ言語等ニ毫モ他覺的ニ抑制モナク、又興奮モナキモノニシテ、ウエルニツク氏ノ所謂感動性鬱憂病(Affective Melancholie Wernicke's)ニ類似スレドモ、余ノモノハ同氏ノ該病ト同一ノモノニアラズ

第五、複雜性鬱憂病(Zusammengesetzte Depressionszustände) 鬱憂症ト他ノ躁病症トガ混在スルモノヲ云フ、之ニ二種アリ

A、躁鬱病ノ混合状態(Mischzustände des manisch-depressiven Irreseins) ハクレバリン氏ノ同症ト同一ナルモノナリ

B、其他ノ混合状態ハクレバリン氏ノ混合状態ニ屬セザルモノニシテ、例ヘバ激越的鬱憂症ト抑制性鬱憂症トノ混合状態等ナリ

以上ノ五種類ハ余ガ鬱憂病ノ主型トスル所ノモノナリ、然レドモ其他ニ尙鬱憂病ノ變型(Varietäten)ナルモノアリ、以下之レニ屬ス

第六、先天性鬱憂病

第七、老人性鬱憂病

第八、先天性低能ニ併發スル鬱憂病

第九、心臟病ニ併發スル鬱憂病

第十、官能的神經症ニ併發スル鬱憂病

之ヲ分サテ二種トス

A、神經衰弱症ニ併發スル鬱憂病

B、「スヒテリ」ニ併發スル鬱憂病

●三日目毎ニ發作セル脊髄癆性幻覺病ノ一例

(全上)

醫學博士 松原三郎

脊髄癆ニハ漸次癡病ヲ發スルモノアリ、或ハ幻覺病ヲ發作シテ數週乃至數月ニ亙ルモノアリ、或ハ突然劇烈ナル幻覺ヲ短時間發作スルモノアリ、然レドモ演者ノ實驗例ノ如ク三日目、或ハ四日目毎ニ發作シテ、其幻覺ガ凡ソ二日間持續シ、更ニ三日間ノ間歇アリテ幻覺ヲ發作スルモノハ是前ノ文獻上ニ甚ダ稀ナルモノナラン、而シテ演者ノ實驗セルモノハ、左ノ如シ

松井某 五十一歳、男、職業竹細工

遺傳 父四十一歳ノトキ死亡、飲酒五合(毎日)母七十三歳健在ス、兄弟四人、内一人幼少ノトキ死亡ス、(病名不明)

既往病歴 生來健全五歳ノ頃ヨリ突然吃語症トナル、二十一歳ノトキ微毒ニ罹ル、三十歳ノトキ左中耳炎ニカヘリ、爾後今日ニ至ルモ尙ホ治セズ

(抄錄)

四十一歳ノトキ何等ノ原因ナクシテ沈鬱狀トナリ、後三ヶ月餘ニテ所々無意味ニ遊ビ廻リ、半ヶ月程ニテ治癒セリ、此時幻視、幻聽アリキ、爾後至身時々電撃様痛アリ

現病歴 昨年十二月初旬突然沈鬱狀トナリ、幻視、幻聽アリ被害妄想ヲ起シ、其妄想ニ支配サレタル行動チナス、多辯トナリ、睡眠セズ、食慾減退ス、夜尿アリ

現症 體格營養共ニ中等、頭部顔面ニ異常ナシ、只左耳中耳炎チ有ス、瞳孔ハ光線ニ對スル反應ナシ、舌ニハ厚キ舌苔ヲ被ル、胸部肺ニ異常ナシ、心臟大動脈第二音雜音ナリ、左心室少シク肥大ス、其他異常ナシ、腹部異常ナシ

反射ハ、膝蓋腱反射左輕微、右全ク消失ス、姿勢俯伏不安、鬱鬱狀ナク、多辯ニテ意識明瞭、領解完全ナリ、視、聽、妄想アリ、妄想ハ追跡、罪業妄想アリ、指南力發作時ニ於テモ明瞭、記憶力モアリ、幻視、幻聽ハ常ニアレドモ、二三日間歇チ以テ幻覺妄想ニヨル行爲チナス、其醒ムルトキハ必ズ一睡ス、聽ハ重ニ宗教的ニテ、又時トシテ警察事項ニ關スルトキトアリ、而シテ左耳ニキコユト、三月十日左耳治療チ加ヘシ後、發作ハ少シク遠ザカリタリ

●神經原纖維 (宿題報告)

Neurofibrillen.

(全上) 醫學博士 松原三郎

要スルニ、有脊椎動物ノ神經細胞内ニ於ケル原纖維ノ狀態ニ關スル諸說チ三大別スルコトヲ得ベシ、即第一、硝酸溶液中ニ固定シテ「モリブデン」酸亞母尼亞ヲ用ヒ、後チ「トルイヂン」溶液ニテ染色スル「ベデー氏方法」ニヨリテ研究スル者ハ、原纖維ノ貫通說ヲ唱ヘ、第二、之ニ反シテ硝酸銀液ヲ用

二八

エルカハール、及ヘルド兩氏等ハ原纖維ノ網狀吻合說ヲ唱ヘ、尙ホ神經ヲ昇示及「ビリヂン」溶液中ニ固定シテ「チオニン」液ニテ染色シタルドナツヂオ氏等モ、此網狀吻合說ニ賛成シ、第三神經チ「フォルマリン」ニ固定シテ冰結切片ヲ硝酸銀ニテ染色セル、ビールシニ「フスキ」、ブロードマン、ワオルフ等ノ諸氏ハ、神經細胞ノ多ク貫通性原纖維チ有スルモ、又或神經細胞内ニテハ網狀吻合チナスモノアリトノ中間說ヲ唱フルチ見ル、故ニ神經原纖維ニ關スル異說ハ、主トシテ其固定法及染色法等ノ研究方法ノ異ナルガ爲ニ起リタルモノニシテ、同一ノ研究方法ヲ用キテ、而カモ異說ヲ抱ク者ナシ、而シテ各自ニ他人ノ染色法等ヲ以テ不完全ナリトナシ、自己ノ研究法ノ完全ナルヲ固持シテ譲ラズ、是レ神經原纖維ニ關スル說ノ異ナル所以ナリ

其他神經細胞周圍ノ網様組織、即チゴルヂ氏網及ビ神經纖維ノ末端ガ、三角形ニ稍々膨大シテ他ノ神經細胞體及ビ突起ノ表面ニ附著スル、所謂ヘルド氏ノ終足 (Endfeß) ニ關スル諸說ハ、茲ニ之ヲ略ス、其他神經原纖維ノ胎生期間ニ於ケル發生狀態及ビ種々高熱、中毒、貧血、睡眠、醒覺、外傷、神經病、精神病等ニヨリテ生ズル神經原纖維ノ狀態ハ更ニ報ゼンコトヲ期ス

●中樞性顔面神經麻痺ノ三例

(全上) 醫學博士 松原三郎

演者ハ同症ノ三例ヲ報告シ、其部位及性質ヲ述ベ、其第一例(五十九歳ノ男)ハ延髓内ニテ顔面神經ノ核部カ或ハ之ヨリ少シ上方ニテ動脈硬化ニヨル小出血ナリトナシ、第二例滿一ケ年一ヶ月ノ小兒)ハ大腦脚ニ於テ結核病竈ノ存スルナラントシ、第三例(四十一歳ノ女)ハ尙ホ之ヨリ大腦ニ入りテ、大腦脚ノ前部或ハ内囊後脚ノ前部ニ小病竈ヲ存シ、月經時ニ血行變調ニヨリテ癲癇發作ヲ生ズルニ至ルモノナラントセリ (未完)

漫 錄

●清國浙江省醫事概況

頃日大清國浙江省公立病院長韓清泉氏及同省公立高等醫學校長兼浙江公立病院副院長湯爾和氏官命を奉じて再び來朝數多の器具器械を購入し傍ら本邦に於ける醫事觀察を遂げ歸途母校を訪れ諸教授知友と舊を語り新を談じ大に舊情を溫められしことは前號記載の如くあるが今兩氏が談話中興味ある節々を書き附けて會員諸君に頒つこととせり。

杭州の位置及人口。杭州は浙江省の首府にして上海を去る急行五時間の所であり人口五六十萬の間にありて繞らずに一大城壁を以てし十個の城門を有す當市は所謂順撫の居る所にして財政行政の諸官皆此所に集まり又知府も存在せり浙江省には八十一府七十二縣に分れ一縣尙ほ金澤市以上にして其下に尙ほ郡、鎮等の區分あり順撫の任期は三箇年にして其勢力は非常のものに屬す則ち省の官政は獨斷的に行ふの權利あり學政には直接政府より提學司來りて之を見る。

病院の設備。予が病院は目下設計中に屬し完成は明後年迄とし經費は約十五萬圓位とす清國は物價工費等約日本の三分一に相當するを以て完成の後には金澤病院の二倍位にあるべしと考ふ目下「ホテル」の目的に作りし家屋を月六十圓にて借用使用せり建築は煉瓦作りの洋式にして收容し得る患者數は四五十名とす
全部金澤醫專校則ち本校の出身と云ふべく韓君は外科眼科病院の職員。

患者を診療し内科は湯君厲君之を司り厲君は午前三時間病院に來られ午後は浙江省の師團軍醫局にあり同氏は同師團の軍醫部長の要職を有し日本の少佐相當官あり尙ほ裁判醫學講習會の議長をも擔任し一週八時間講演せらる。

病院と各科。目下眼科は外科に屬するも明年度より分立せしめ昨年慈惠醫專出の人を採用する筈内科は呼吸器循環器腦神經科を一部とし厲君（四十一年度出）を部長とす湯君は泌尿消化器小兒科を擔任せられ傳染病產科婦人科種痘等は交互代りて從事す外科は尙ほ分科の運びに至らず外來患者は七十名位あり

患者と風習。孔孟の道を重ずる同國人には今尙男女の別嚴しく昇降口すら同一あるを好まず内診等は今も尙容易に許されず殊に婦人の診察は醫師と患者の外に人の入るを好まず爲めに婦人科は最も困難なる科に屬し學校等の完成の曉に譲りて今は分立せず上海には一個の女醫學校あるも女醫にも内診せしむるを好まず當分は致し方からんと

看護婦と看護人。目下の所は男女を便役し男子は男の患者を看護し看護婦は婦女を看護せしむることとす男女共に十名を有せり彼等は患者に對して親切に看病せり
診察と等級。特別診察料は一回一圓として綠色の診察券を用ゆ普通は參拾錢にして赤色とし有効期間を一箇月間とす施療は白色券を出して患者の便に供す

藥價と原料。藥價は一日十二錢にして原料は一般に高價あり其は他に原料を仰ぐの必要あり今尙草根木皮を重用す
施療の方法。施療患者は豫め時事局則ち市役所警察署慈善局等に施療券を出し置きて患者を診療し治癒する迄投藥所置を行ふを例とし以て一般衛生の普及を計りつゝあり

疾病の種類。麻刺亞、心臟瓣膜病、癆瘵實斯は非常に多きを覺ゆ是土地の

濕氣甚しき爲にして建築も土地の上に直に板又石を敷き外廊には高き石垣を繞らす爲光線の不充分を來し甚だ不衛生的あり、こは強盜火災の豫防の目的に出で一定の法規ありて高きの足らざる時は罰金に處せらるゝを以て皆一定せるを見る、從て類焼の災ふきは得点ならん、生存競争の結果近來神經衰弱患者も増加せり寄生虫は蛔虫多く揚子江沿岸地方には腸寄生虫あり湯君は蛔虫の冥入に基く呼吸困難症の一例を實見せられしと、傳染病は赤痢少く昨年冬季猩江熱あり最も多きは虎刺亞腸室扶斯にして秋には「コレラ」あり實扶常里、痘瘡も存在す勿論種痘は行ふ百斯篤は上海地方にあるも抗州にふし黴毒淋病は漸時増加せり、癩病は抗州附近に療養所あるも患者は少數の如し同病患者の世人に嫌はるゝと日本に同じ呼吸病消化器病も多數あり、外科的疾痛にては皮膚病にては慢性の濕疹多し勿論合理的の治療を施すの設備ふかりし爲あらん、惡性腫瘍も多數あるも手術は嫌惡する爲め謝絶す全身麻睡も一般に嫌はるゝ方あり、化膿性中耳炎は多きも鼻の疾病は少なく痔核は非常に多く十八九歳の俗語すら存する位あり痔疾は上流社會に多し是正坐する爲あらん、韓君に一成功談あり一少女腸出血ありて治療するも治せず終に強制的に肛門検査を行ひ内痔の存在を認め坐藥を用ふしに直に十幾年の病痛癒えて大に謝辭を受けしとあり、狂犬病甲狀腺腫も時々あり、「トラホーム」は非常に多く高度の「トラホームパンヌス」も多し然し眼科專門醫は少數あり、上海には上海痲瘋實斯北京熱あるものあり「チアス」の一種あらん長江熱も然るか、精神病も多く同病に對する迷信は重に孤懸死靈鬼などの爲かりと稱せらる祈禱藥狀等も盛行はる正月五月には門に一種の貼札をふす精神病の系統は同じく世人の嫌惡する所あり食物と飲酒。食物は煮沸せるを用ゐ刺身等の生肉を用ゐす下等社會は料理の不完全ある爲め疾病も多きを例とす飲酒は盛行はる米にて作成す夏は殊に強酒を用ひ是は萬病の元ある濕氣を取るとの迷信に基く女は飲酒喫煙せず烟管は長きものにて中に水の入りしものを用ひ近來卷烟草も用ゐら

るゝに至りぬ茶は紅綠のものにて綠茶を用ひ則ち茶碗に茶を入れて蓋の間より水を吸ふり來客には第一に茶を進むるは日本も同様あり
娼妓と淫賣。娼妓は城内には居住せざるも城外開港地には多數ありて淫賣一定の鑑札の制なく妓樓に入れば其方の目的に使用せらる檢査の法規もなく梅毒の傳染は自由なり然し普通地に於ける淫賣は罰金に處せらるゝ外社會的制裁は嚴かり姦通等をふす婦女あるときは姦夫と縛して水中に投じて罪を正すを例とす
支那の幽霊と惡鬼。多くの種類あるも支那の幽霊は日本のものと異りて足を有す歩行は飛ぶが如く來ると淫死には鬼ありて死せしむるふりと稱し水鬼ありて長毛瘦軀水流に遊びて人を溺れしむるを仕事とふす火災には火神ありて之を司る云ふ
抗州の氣候と植物。植物は熱帶及溫帶的あり冬には落葉竹もありて雪は極少量にて正月に一二回位あり層は舊曆を用ゐ正月を祝ふ日数は永く學校の休暇も暮の二十日より正月の二十五日迄にて暑中休暇は一ヶ月位あり。抗州の病院。今日迄は教會の醫院にて英國人の經營にかゝり何病にても石炭酸水を專用し十八世紀的の遺物あり一週に二日は施療にて他の日は十錢を徵取す其他外人の病院あり都合三個あり言語は官話(北京語)は一般通用語とす
就學期間。中學五ヶ年小學校五箇年とす
醫學校の開校期と學生募集。中學卒業程度の學生を募集し明年正月開校の考へあり教室は百二十名を收容するの設備をなし百乃至百二十名を採用する答あり尙同校卒業生にして優等ある者は官に乞ふて日本に留學せしめ母校に託して大に醫學の奥義を研究せしむる答にして湯校長は大に盡力せらるゝ答あり

附記、同談話は韓湯陶兄の編輯委員等に話されしものを記憶に任せて列記せしもの萬一の誤謬は執筆者の責任あるとを斷り置く(福田美明)

●獨逸の醫者と日本の醫者

不曲書堂主人

醫者と云ふは茲には開業免狀を有するものを云ふので勿論醫も此の内に含んで居る、醫者の數は獨逸に於ては漸々増加する、即ち一九〇八年の調査によれば人口六千六百四十一千二百七十八に對し醫者の數は三萬一千六百四十人即ち面積百キロメートル平方に付五、八六人及人口一萬に付五、二二人と云ふ割合である、而して醫者は漸々大市街地に多くあつて行く、今歐洲大都市に於ける人口壹萬に對する醫者の割合を示して見よ。

年 醫者の數

△ベルリン	一九〇五	一四、〇
△ハンブルグ	一九〇五	八、一
△ミュンヘン	一九〇三	一六、八
△ツキーン	一九〇〇	一三、九
△ブダペスト	一九〇二	一四、二
△ブリュッセル	一九〇三	一七、〇
△パリ	一九〇二	一〇、三
△ロンドン	一九〇五	一三、九
△モスコ	一九〇四	一三、八
△ローマ	一九〇五	一五、八
△ネアープル	一九〇五	一九、〇
△マドリット	一八九九	二四、六

大都市に醫者の數の多いのは各國とも同様で東京の如きも其例に泄れない東京麹町區の如きは人口一萬に就き三十六人と云ふ世界無類の多數である今東京市部の人口と醫者數とを示して見よ。

區名

人口

醫者の數

に付人口

○麹町區	五二、二五二	一九〇	二七五
○神田區	一四二、三七八	三六三	二九二
○日本橋區	一一〇、八二八	二九二	三七九
○京橋區	一二一、六〇九	二七一	四四八
○芝區	一二四、六〇五	四〇四	三〇五
○麻布區	六一、八七五	一五四	四〇一
○赤坂區	四四、二八二	一五〇	二九五
○四谷區	四三、二三一	一二〇	三六〇
○牛込區	一〇五、七一七	二一六	四八九
○小石川區	九八、三六二	二〇三	四八四
○本郷區	八九、三二五	七四四	一二〇
○下谷區	一四八、四三八	三〇六	四八五
○淺草區	一八二、三七三	二三三	七八二
○本所區	一五九、七六八	一八〇	八八七
○深川區	一三七、九八六	八〇一	七二四
市部總計	一、六二三、〇七九	三、九一〇	四一五

東京には醫者であつて開業をして居らぬもの即ち軍醫とか、役人とか、或は研究に従事するものとかあるから殊に多數であるが、夫等の數は非常に多いものでない、本郷區の如きは大學に在り其教授、助手其他研究生等が澤山あるから人口百二十人に付醫師一人と云ふ様數が出るのであつて是れは除外例とするも、東京には醫者の過剰あることは争はれない事實である。(明治四十一年十二月末現在)

次に各國に於ける人口一萬に對する醫者の數を參考迄に掲げて見よ。

△ドイツ	一九〇五	年	人口一萬に 付醫者の數
			五、五

△オーストリア	一九〇四	四、五
△ウングアルン	一九〇二	二、八
△イタリヤ	一九〇五	六、四
△シユウイツ	一八九八	六、一
△フランス	一九〇一	四、四
△スペインヤ	一九〇〇	七、一
△ベルギー	一九〇一	五、四
△オランダ	一九〇〇	四、五
△イギリス	一八九五	六、一
△スコットランド	一八九六	七、七
△アイルランド	一八九五	五、六
△デンマーク	一九〇〇	六、四
△ノルウエー	一九〇〇	五、三
△シウエデン	一九〇〇	二、七
△フキンランド	一九〇一	一、五
△歐洲ロシヤ	一九〇四	一、九
△日本	一九〇一	七、三
△北米合衆國	一九〇二	一六、二

込める青年醫者の數は實に二千有餘名であつたが、其内適當の地位を見附けたる者は極めて一部分に過ぎない云ふことである、是れ明かに「醫術も亦パンの方に行く」ことを示し如何に獨乙の青年醫者が地位を得んが爲めに煩悶して居るかを不すものであるふ、日本では未だ夫れ程ではないが、斯の如き時節の到來は左程遠きにあらずる様を評判であるから眞偽の程は保證の限りでないが、或る醫科大學の卒業生は殊に賣れ行きが悪く七八十圓の月給で府縣の検査委員をも辭さぬ云ふ位である、他の専門學校出身者、試験開業醫者等の賣れ日は之れより推するに難からずである、併し是れが爲めに人工的の醫者の製造を養成を制限するが如き政策を弄する必要は毫も無きのみならず非常なる有害であるから醫學教育は愈々盛んに愈々多數の醫者を世の中へ送り出すことが必要だ、殊に日本は其周圍に醫者を輸出すべき多くの得意場を持つて居るではないか。今日は怪しい腕前の者や品性の如何かはしき者甚だしきは無學無免許の賣藥人等が醫者と稱して入り込んで居るものが、寧ろ多數であるから日本醫者の名聲が赫々でふいのみならず聲價を減下需用が充分でないものであるけれども、これが若し相當の教育ある醫者が輸出されることになれば、其需用の大なること勿論のこと、信する、唯だ今日では相當の醫者は出稼ぎ迄する必要がある、又た出稼の勇氣がないから引込み思案で居るが、所謂相當の醫者がカバン片手に溝板ガダ／＼犬の尾を踏んで吠へ付かるゝ様な時代になれば必ずや奮發心が起こると思ふから、夫れ迄は醫者が澤山出来るがよろしい。如何ある人が醫業に適するか又た如何ある人が醫者とあり得べき醫者となるべきかと云ふことは古い問題である、ヒポクラテスの所謂「同時に哲學者たる醫者は神に比すべきものあり」は余りに自畫自賛であるが、醫者は「良き生れ」のものからざるべからず「良き生れ」とは五官器が健康で體力が強壯で活潑にして理解の速いある智能を有すると云ふことで之れは醫者としての必要條件で、此の性質を有せずば何人とも雖も醫業を行ふ上に好果と

満足とを贏ち得ること能はぬのである、強固なる人格、平靜、熟慮及虚心は醫者として如何なる場合に於ても忘却すべからざる性格である、ノートナーゲル氏曾て曰く、『良き人にして初めて良醫たるを得べし』と誠に金言である、確乎たる主義なく、患者に對する眞の同情なくば患者或は其家族に眞正の肉心的満足を與ふことが出来ぬ、又た社會的醫業の領域に貢獻することが出来ないのである、彼の冷淡にして同情なき厭世家は全く醫者たるの資格を有せざるものであるから、何人か雖も厭世的の感情を有するものは醫術を行はざるをよしとするのである。蓋し其職業上に難關するものは、其心理状態が著しき關係を有するものであるからだ。

日本では大學及專門學校を卒業し何々學士とすれば開業免許を受けられるのであるが、獨乙では國家試験が第一で、『ドクトル』試験は第二である。

國家試験は大學に於て十學期間修業したる後、初て受験の資格が出来る、其課目は(一)病理解剖及病理總論(二)内科(三)外科(四)産科及婦人科(五)眼科(六)精神病科(七)衛生學の七科であるが其他受験者は生理學解剖學を忘却して居らぬと云ふことを證明せねばならず、又た以上の七科目の外耳鼻咽喉科、皮膚花柳病科、藥物學、毒物學、局所解剖、法醫學及醫學史の内に就て試問せらるべく、唯だ衛生學の試験は全く口頭だけで、且つ學說のみに止むのであるが、他の科目に於ては學說だけでなく、實地の試問もある、從て全試験の終了には三月月を要する。斯くして國家試験に及第すれば免許を得て開業醫となり得るのであるが、何れも亦『ドクトル』、『メデチーネ』と云ふ學位を得る爲めに『ドクトル』試験を受ける、『ドクトル』試験は、國家試験に及第したる者が初て受験の資格を得るので、是れは多く醫學全科に涉りて、總括的觀察論文、或は或科目の或問題に就て論文を書くのである、『ドクトル』試験の費用は、大學に依て同しからざるも、論文印刷等の費用がある爲め、大抵三百乃至六百『マルク』を要する、若し是れが外國人で、而かも其實力、殊に語學の力あきに論文を書き『ドクトル』、『メ

デチーネ』を贏ち待他日歸朝して大に開業の看板にしよふとするには、三百『マルク』や六百『マルク』では到底六ツ箇數の彼様にして、『ドクトル』を得たる人々は勿論之れを他言する筈はふいから、何程位掛かるか知れふいが、先づ『千マルク』以下と云ふことはふからう。

次に官醫とあるにはふか／＼八釜ましい規定がある、例へば普國に於て區醫とあるには、試験を受けねばならぬ、而して其試験は『ドクトル』の學位を有し、獨乙の開業免許を有し、且つ開業試験の際良或は甚良と云ふ成績のものなれば、開業試験を了りし後二年を経れば區醫の試験を受ける資格を有するも、若し其成績單に『可』と云ふのであれば、三年を経過したる後にあらざれば、受験の資格がふいのである。且つ志願書を差し出す時に、學校卒業後、精神病学法醫學病理解剖學及衛生學を特に修學したることを證明せねばならぬ、斯くして後、公衆衛生學、法醫學及精神病学より各々二問題を課し此の問題に對して、科學的形式を以て答案を作り、六ヶ月以内に之れを文部省に提出するのである。此の筆記試験に及第すれば茲に長くとも六ヶ月以内に口頭試験が行はるゝ、此の口頭試験には、衛生警察の問題に就て答案を作らしめ、負傷者及精神病患者に就て鑑定報告書を作製せしめ、次に剖檢病理組織及衛生上の検査を行はしむ、以上の外、眞の口頭試験は、衛生學、細菌學、法醫學、精神病学、及醫事警察の領域に就て行ふのであるから、苟も區醫の試験を受けんとするには、種々の實習を修得せねばならぬ。其準備に二三年を要するのは當然である。斯くの如く區醫の試験は六ツ箇數いから、區醫の權利と云ふものは甚だ大であつて、我が邦の府縣の技師とは大に趣きを異にして居る、是れは後文に詳しく述ぶるであらふ。(未完) (醫海時報抄)

●英國に於ける醫育

海軍々醫少監 隈 川 基

本編は官命を帯び久しく滯英中ふりし海軍々醫少監隈川基氏が歸來海軍々醫學會に於て講演せしもの、彼國の事情頗る參考とすへきものであり茲に收載する所以也。

英國に於ける醫學教育に就て述ぶるに先ち、一般教育制度、並に之に關聯する行政機關の梗概を述ぶるの要あり。人の知る如く、英國は所謂 Party Government (政黨政府) にして、國民の輿論を代表する議會に於て多數を占めたる政黨は、入て内閣を組織し、其政綱を實地に行ふ、内閣 Cabinet は Premier 及び Minister よりなる、之は政府の首腦とす、此他に The Privy Council (樞密院) なるものあり、其委員(即ち顧問官)は國王の任命する處とす。

行政機關を二大類別す、一は所謂 Great Department of State にして、一は Lesser Department of State とあり、前者は左の各省よりなる。

- The Treasury (大藏省)
 - The Foreign Office (外務省)
 - The War Office (陸軍省)
 - The Admiralty (海軍省)
 - The Home Office (内務省)
 - The Colonial Office (殖民省)
 - The India Office (印度省)
- 後者は左の各廳よりなる、
- Board of Trade
 - Local Government Board

Board of Agriculture and Fisheries

Board of Education

Board of Works

Revenue Department

ボード、オフ、エテックレーションは、一八九九年發布の條例に基くものにして左者より組織せらる。

President, The Lord President of Council

Principal Secretaries of State

The First Commissioner of Treasury

(大藏大臣に當るものにして何時にても首相の兼ねるもの)

The Chancellor of the Exchequer (大藏尙書)

則ち教育に關する行政は、右に掲ぐる官憲の合議に依り行はるものとす。教育に關する管理系統は之を中央及地方の二に分つ、一は中央政府直管のものにして、他は地方團體の管する處とす。

中央政府直管に、るものは左の六種とす。

Board of Education 教育會議直管のもの

Board of Agriculture 農業會議直管のもの則ち農業教育

Home Office 内務省直管のものにして工業教育

War Office 陸軍省直管にして陸軍諸學校

Admiralty 海軍省直管にして海軍諸學校

Local Government Board 地方政廳の直管する處にして貧民法 (Poor

Law) に依り設立せられたる學校

地方自治團體の管理するもの

County Councils 市會の管理するものにして其自治區域内の中等及

初等教育全般

County borough councils 區會の管理する處にして其區域内の中等及

初等教育全般

Councils of Non-County Borough の人口一萬以上のものゝは現行自治制發布前の制度に依るものにして其管理する處市會に同じ

Councils of Urban District の人口二萬以上のものを管理する處前者に異らず

Non-County Borough の人口一萬又は之に満たざるものゝは單に初等教育を管理するのみ

英國に於ける教育は左の四種に大別す

- 一、Elementary or Primary Education 初等教育
- 二、Secondary Education 中等教育
- 三、University Education 大學教育
- 四、Technical Education 實業教育

(一) 初等教育

十七世紀の頃にありては、英國の文華大に發達し、國民教育の如き大に見るべきものあり、現時尙ほ其名を存する Grammar School は、國內到處に設立せられたりき。然るに十八世紀に入るに及んで、混沌たる政治上の爭亂は、文華の進運に一大頓挫を與へ、教育の如き地に遺棄して復た顧るものなきの悲境に陥り、唯僅に宗教家の手により、一國教育の弛廢を免るゝを得たること、猶ほ封建の頃、我邦に於ける寺小屋に比すべし。

十九世紀に入るに及んで、世の先覺者は漸く國民教育制度の不備を憂ひ、就中 Joseph Lancaster British and Foreign School Society (之は宗教には關係なし) 又は National Society (宗教に關係あるもの) 等の盡力により、都會並に村落に於ける學校の整理其緒に就くに至れり。如斯にして英國に於ける學校あるものゝ起源は、皆盡く私人又は公共團體の經營する處にして、政府の之に補助を與へて、大に獎勵の道を講ずるに至れるは、實に近事の事に屬す。

一八七〇年、所謂 Forster's Education Act (フォースター氏案教育條例) あるもの議會を通過し、此に始めて Board School があるものゝ設立を見るに至れり。之れ行政機關の負擔により、又は其補助を受けて設立經營する處の所謂公立學校ありとす。

一八七六年には兒童の教育は強制的となりしが、一八九一年舊制に復し、兒童教育も全く自由にして、所謂義務教育制あるものゝし。

一九〇二年に The Education Act (教育條例) の發布あり(倫敦市にては少しく之れに變更を加へ一九〇三年より實施したり) 國民初等教育は、全然之を地方自治機關の撰定する委員の手に委ね Elementary School (初等學校) は其私立 (Voluntary 又は現時之を Non-provided と稱す、公金の供給を受けざるもの) あると、公立 (所謂 Board School と云ふ現時又之を Provided School と稱す則ち公金に依り設立經營するもの) あるとを問はず、共に之を同一委員の監理の下に置き、同一の割合に補助を與ふることをふせり。此の改正により、既に其以前より自治機關の特別委員の監理の下にありし、Secondary School (中等學校) との連絡上、頗る便宜を見るに至れり。

Public Elementary School は、十五歳迄の兒童に、初等教育を授くる處にして、其教授する科目、並に教育の方針は、其地方の要求を參照し、之を撰定するの慣習あるを以て、我邦の如く、全國を通じ同一ある能はず。若し父兄にして其子女に更に高等の教育を受けしめんを欲するときは、兒童の年齢十一乃至十二歳に達したる頃に、初等學校より他校に轉せしむるものとす。

英國の教育制度中、吾人が見て以て最も美事とし、羨望に堪えざるものは、所謂 Scholarship ありとす。之れ我が奨學金の如きものにして、獨り英國にのみ特有の制度にあらざるも、同國に於ては、其規模廣大にして、其數頗る多く、家貧にして一錢の貯財なきものゝ雖も、才能あるものは、此法

により容易に最高の教育を享受するを得べく、之れ廣く天下の人材を養成するの道にして、英國の國運發展して、克く今日の強大を致せる所以のもの、蓋し過然にあらざるを覺ゆ。

此の Scholarship なるものは、各地方自治團體により、一樣ならず、今茲に倫敦の獎學金制度を簡述すべし。

倫敦市は四種の「スカラシップ」を有す、即ち

1. Junior County Scholarship
2. Probationer Scholarship
3. Intermediate Scholarship
4. Senior Scholarship

Junior County Scholarship は毎年初等學校の生徒中十一乃至十二歳に達したるものの中、成績優等なるものに授與する特典にして、此の「スカラシップ」を得たるものは、三ヶ年間、中等學校 (Secondary School) に於て、無料にて教育を受けるの權利あり。三ヶ年の終に於て、其成績品行共に優秀なる者は、更に二ヶ年間、其權利を延長せらる。公立初等學校以外の兒童にして、此「スカラシップ」を得んとする者は、第一條件として、其両親は所得年額百六十磅 (約千六百圓) を超えざるものたるを要す。此「スカラシップ」に附屬して、最初の三年間は、年額五磅、終りの二年間は、年額十五磅を給與せらる。此の「スカラシップ」を得る競争試験科目は、英作文及び算術とす。

Probationer Scholarship は十四歳乃至十六歳の女子及男子にして、一定の試験に及第したるものより採用し、初等學校の教員たる資格を得んとするものに與ふるものにして、年限は二ヶ年、其間中等學校、又は教員養成所 (Pupil Teacher Center) にて無料にて教育を受けるの權利を有し、且つ一ヶ十五磅を給與せらる。

Intermediate Scholarship は十五自乃十七歳の學生にして、學校の種類に

制限に設けず (但し地方自治團中には、學校の種類を指定するものあり)。其両親の所得年額四百磅を超えざるものの中より採用す。此「スカラシップ」は、學年の終に於て、十八歳に達したる時より始まるものとす。此「スカラシップ」を有するものは、Approved Secondary School (公認又は認可中等學校) 又は Technical College (實業學校) に於て、自由に教育を受けるの權利を有し、年額二十五磅乃至三十五磅を給せらる。倫敦市は毎年百名を採用す。

Senior Scholarship は大學實業專門學校又は之に等しき程度の高等教育を受けんとする者に授くるものにして、其候補者は競争試験を受ける年の七月三十一日に、二十二歳より年少なるを要し、此の「スカラシップ」に附屬する金員は、學校の種類に依り一樣からざるも、年額三十磅乃至六十磅の間に於て、六十磅を超ゆることなし。両親の所得は年額四百磅を超ゆる者は、之が候補者たるの資格なし、倫敦市は年々五十名を採用す。

自治機關に屬する「スカラシップ」の外、私人、公共團體に屬するもの甚だ多し、就中有名なるものは Christ's Hospital Scholarship (九乃至十二歳のものに限) にして、年々多數の生徒に教育を享くるの便宜を與ふ、又 Glaxo Education Trust の如きは上大學より下初等學校に至る迄、多數の「スカラシップ」を有す。此他 London's Parochial Charity (寺領慈善團) の如きは倫敦大學の經濟科に多くの「スカラシップ」を有す。

子弟不幸にして上述の「スカラシップ」を得る能はざる者の爲に、各初等學校にて Evening class (夜學) なるものを開き、主として實業的教育を施す、其學費の如きは、極めて少額にして、何人とも難するに難からざる程のものとす。勿論自治機關は之に多大の補助を與ふ、之れ所謂 Polytechnic 々稱するものにして、國內到處に之を見ざるあり、社會教育上貢獻する處甚大なるを認む。其授くる學科は British Trade Union (英國商業組合) 等の研究する處に於て、Life and Labour (生活と勞働) の

問題解決上、頗る適ふるものを選択しつゝあるは、大に吾人の着目すべき點ありと思考す。

此處に一言したきは、英國に於ける貧富の懸隔甚しきより起れる初等教育上の一弊害と認むべきものありとす。英人富者は勿論辛ふして所謂 *Well to do people* の仲間入をなすを得る人々も、公立學校等に、其子弟を送るを以て、一種の汚辱と思惟するの風あり。之を以て、彼等は其子弟をして、初等教育を小私塾に於て受けしむるか、或は又全然家庭教師の手により、單獨教育を施すを常とす。則ち他日社會の中堅として、最も健全なる國家分子たるの責務を有する上流及中流（英國にては中流社會の存在は殆ど之を認むるを得ざるも先づ上流中の稍低きものを中流社會と見做す）社會の子弟等は、かく單獨教育を受くるの結果、生存競争的惑念に乏しき「オポッチャン」的人物に養成せらるゝの傾向あるは、免る可からざる數にして、現時英國に於ける青年子弟の情況を委細に考究し、其氣風を觀察し、之を其國際的生存競争對手國たる獨乙等の青年子弟の一般情況及氣風と比較對照し、輒近に於ける兩國國運發展の跡を追想し、遠く其將來の上に考察憶想を回らす時は、興味津津たるものあるを覺ゆ。

(二) 實業教育

英國は流石に工業國あり、海軍と工業とは英國々民の生命あり、英國上下の實業教育の奨励に熱中すること、尙ほ其海軍擴張に夢中あるが如し。之を以て、實業教育に關する公私の資金、寄附金等を頗る豊富にして、政府の之が爲めに支出する金額亦甚だ多し。

一八八〇年發布の *Technical Instruction act* (實業教育條例) は、市會に實業教育費に充つる爲に、一磅に付一片の率を以て課税するの權能を附與したり。一九〇二年の *Education act* (教育條例) によれば、地方教育委員は實業教育、又は中等教育には、彼等の必要と認めたるだけの資金を費す可得と規定しあり(小ふる區會等にては一定の制限あれ共)一八九〇年の地

方稅規則により、國稅及關稅より大藏省が年々教育費として市廳に下附する金額は、百萬磅を超ゆ、之等の經費は、前述の「スカラシップ」(「ボリテクニク」、及び實業教育費に充てらるゝものとす。實業教育を授くる學校は、次の三種に類別すべし。

イ、Technical Institute

ロ、Technical School

ハ、Technical College

「テクニカル、スクール」の外、*Trade School* (商業學校) も亦此中に含有せらるべきものとす。

倫敦及各都會には「トレード、スクール」あるものあり、初等學校を終れる女子十四歳の(を收容し、之に商業教育を授くる處とす。倫敦市は、百卅八の「スカラシップ」を有す。實業教育のみに關しては特別の「スカラシップ」あり之を *Scholarship in Science and Technology* と稱し、採用試驗合格者を採用し、二ヶ年間研究し從事せしむ。

(三) 中等教育

廣意義に於て *Secondary Education* と云へば、初等學校より高き程度の學校を意味す、從て前記實業教育も、此中に包含する如く考ふるものありて、區々あるを以て、最近教育會議は特に告示を發して、劃然たる區別を示したり。其要に曰く、中等教育を授くる中等學校とは、十六歳以上の學生を收容する日間學校 (*Day School*) 又は *Boarding School* にして、普通教育、體育、智育、德育に關し、初等學校より高等の教育を授くる處とす。

然共尙其意義明かあらざるを覺ゆ。

普通一般に「セカンダリー、スクール」(中等學校)と稱しつゝあるものに四種あり、左の如し。

イ、Higher Elementary School

ロ、True Secondary School

ク、Grammar School

ニ、Private School

Private school は則ち、私立學校若くは私塾を稱すべきものにして、公金恩恵に浴することなきものを云ふ。既に前述せる如く、其生徒は、頗る僅少なるを以て、各生徒は克く教師の親切ある教授を普く享受するを得るの利益あり。如斯學校に生徒を送る父兄は、驚くべき程多額の教育費を負擔せざる可からず(但し此の種の學校中には、時として校舍建設、器械購入等の爲に、公金の補助を仰くものなきにあらず)此種の學校の目的及趣旨は、素より種々ありと雖も、主として大學に進むの豫備教育を授くるにあり。

「プライヴェート、スクール」中には、特に法學、醫學、農學、應用科學等を授くる處あり。又、海陸軍將校志願者にも豫備教育を施すもの、或は高等文官(日本のものは少しく異なる)たらんとする志願者のみを收容するものあり。女子にありては、音樂其他高等の試験に應ぜんとするものに、豫備教育を施すものあり。年齢は十六歳乃至十七歳に終るを普通とす。

「ハイヤー、エレメンタリー、スクール」は、十五乃至十六歳迄、學校生活をふし得る學生に適するものにして、普通の初等學校に在學を續くるよりも、此種の學校に入るを利益多しとす。此學校にて、教授する科は三種に區別するを得し左の如し

(甲) 普通文官試験に應ずるに足る教育を施すもの (則ち Lower civil Service と稱し税關吏稅務吏たらんとするもの)

(乙) Intermediate Scholarship の試験に應じ以て Technical Institute に入らんとするもの

(丙) 十五歳又は十六歳にして學校生活を終らざる可からざるものにして其後 Polytechnic 又は Evening class に於て修學を欲する者の爲

め將來修學上の素養を作らんとするもの

殘餘の二種則ち Grammar School, Public School (Secondary School) の通稱あり)との間には、教育上殆ど些の區別あるを見ず。「グラママー、スクール」は只其創立古く、其經費は私金により支辨せらるゝものにして、「パブリック、スクール」は私金に依り支持せらるゝの區別あるのみ、則ち公立と私立の區別とす。

此校學生の最高年齢は、十七歳迄あり共、屢々十八歳迄在校するものあり、此校を終るや、多くは大學に進む。之等の學校には、大學教育を受け得るの「スカラシップ」あり。學科は高等普通學あれども、或校にては「ラテン語」の科目を缺くものあり、「パブリック、スクール」(則ち「セカンダリ、スクール」)彼の有名なる Eton College (一四四〇年創立) Winchester College (一三八七年創立) Rugby School (一五八七年) Harrow School (一五七一年)等は、此種に屬するものとす。之等は皆各有名なる大學に進むの特定豫科とも稱すべきものとす。兎に角英國にては Public School man と云へば、既に一種尊敬すべき意義を有し、何人も體育智育德育共に完備したる青年として認むるの風あり。是等の學校にては、多くは次の三部に分ちて學生を教育す。

(イ) Classical department 全然大學豫科なり

(ロ) Modern department とも稱すべきものにしては陸軍、商業、機關、其他實業的方面に向はんとする者を教育す

(ハ) Junior と稱し則ち幼年部とも云ふべきものにして一定の年限の後上述「クラシカル」又は「モダン」の何れかへ進むべきもの

年齢はイ、ロ、の二部に入るものは十二歳よりにして、十五歳を超て在校するものなきの規定なれ共、實際は十九歳在學するもの少からず。之等の學校に子弟を送らんとするものは、三乃至四年前より、照會し置くにあらざれば、其目的を達すること容易からず。此種の學校には、夫々多數の

「スカラシップ」を有すれ共「スカラシップ」を與ふべき目的の下に、其學校にて特に設立しある豫備校に特別の教育を受けたるものにあらざれば、容易に之に合格することを得ず。

(四) 大學教育

英國大學を代表するものは Oxford 及 Cambridge とす。共に其創立は遠く十三世の昔にあり。人の知る如く。英國には我國の如く官立の大學あるものなく、皆私人の寄附（遺産、土地等）により經營せらるるものにして、各大學各特色とする處あるも、其主眼とする處は、職業に就かんが爲めの教育を授くるにあらずして、將來國家の堅實なる分子たるべき所謂英國紳士 English Gentleman を養成するにあり（今は大學の一分科として存立する、醫科の如く、職業的教育を授くるものは、之を Professional Education と稱し、所謂大學教育 University Education より別種のものを見做すの風あり）。オックスフォード並に「ケンブリッジ」大學は、各成數の College の集合體にして、大學に關係ある者全體を稱して、Scholar と云ふ而て教授の任にあるものは Senior Scholar にして、學生は Junior Scholar と呼ぶ、又前者を Fellow と稱し、後者を Student とも稱す、學生卒業して「稱號」を得たるものは、之を Graduates と呼び、其否らざるものを Undergraduates と云ふ。教授學生共に各 College 内に居住す。則ち學生は日々其尊崇する教師に親炙し、其薫陶を受くるを得るを以て不知不識の間人格を修養するを得。

各大學は其講義を公開す、此公開講義の傍聴生の格にあるものを「オックスフォード」については Commoner と呼び、「ケンブリッジ」にては Pensioner と稱す。大學の教職にあるものに Professor ある Title を與ふるは、近來の事に屬し、此の「プロフェッサ」の外 Reader 及 Lecturer あるものあり、又特別の認可を受けたる助教を Tutor と稱す、英國に於て女子を大學に入學せしむるに至れるは、晩近三十年來のものにして、倫敦大學先

つ之を許可し、Durham 大學之に次ぎ今や國內各大學皆之を許すに至れるも、「オックスフォード」及「ケンブリッジ」の兩大學は依然として女子の正學生たるを許さず大學の修學年限は三ヶ年を普通とするも、醫科のみは病院に於ける臨床實習を加ふるを以て、五ヶ年とす。學年は三學期に分ち（オックスフォードにては四學期に分ち）十月に初り六月に終る、各學期は八週（古き大學）又は十一週（新しき大學）とす。入學の年齢は十六歳以上にして（女子は廿一歳を超えるもの多し）入學中其學生の友人は、其學生の保證人たるを要す。入學志願者は皆入學試験 Matriculation or Entrance Examination を經るを要す。稱號を得んとする者は、二回の試験を受けるの規定あり、第一試験は Intermediate examination にして、第一學年の終りに受くるもの、第二試験は Final examination にして、第三學年の終りに受くるものとす、此稱號試験に關しては各大學規則一様ならず。

各大學には、多數の Scholarship を有し、今は殆ど公開の狀にして（昔日は一定の豫備校在學者にのみ限りて之を授くるの規定ありしが）何人とも、十九歳以下のものは之に應ずることを得、又各大學には Exhibition（博覽會には非ず）と稱するものあり、一種の Scholarship にして、學生に學資金を與へ、又懸賞金を與ふるものとす。

此「エキシビション」資金贈出の法として、頗る面白き慣習あり、倫敦の大工職組合は「ケンブリッジ」大學に年々三十五鎊（約三百五十圓）を給する一個の「エキシビション」を有し、倫敦呉服商組合は「オックスフォード」及「ケンブリッジ」兩大學に、年々三十鎊（約三百圓）を給する各一個宛の「エキシビション」を有す、此他如斯例甚だ多し。之が詳細を列舉すれば、頗る興味ありき雖も、時の餘裕なきを以て、他日に譲らん。

現時英國内にて大學の稱あるもの左の十六校とす

Oxford	Cambridge
Durham	London

▲醫學教育及び醫制

現時此委員會は三十四名の委員よりなる、其中十名は公團體の代表者にして、五名は樞密院の推舉に依り、國王の指命する處、五名は醫會直接の代表者として、醫會の撰出する處なり此他は大學及醫學校より撰舉するものなり。

倫敦大學

同 同 同 同 同 同 撰
一 一 一 一 一 一 出

二、醫師にして General medical council が醫業上不名譽と認めたる
行為ありたるとき

	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	撰	同	同	同	同	同
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	出	一	一	一	一	一

「ゼネラル、メデカル、カウンシル」は「イングラント」「スコットランド」「アイアランド」に各支部を設け、各所管の區域内の事務を管掌す。
「ゼネラル、メデカル、カウンシル」の權能を細目に分ては之を左の四項と
あすを得。

- 一、醫籍登録並に其保管
- 二、醫學教育の監視
- 三、懲罰の權、及び醫師の風紀維持
- 四、藥局方に關する件

▲醫 育

醫師たらんとする學生は、先づ「ゼネラル、メデカル、カウンシル」に登録の手續を了せざる可からず、此手續をあすに先て「ゼネラル、メデカル、カウンシル」の認可したる Preliminary Examination に合格するを要す。此試験に應ずる者の年齢は、十六歳以上あらざる可からず。其試験科目左の如し。

英 語 文典、作文、意義解釋
地 理 英國地理
歴 史 英國歴史
ラテン語 文典、譯解
數 學 算術、代數、幾何
外國語 ギリシヤ語、又は近世外國語中の一國語
英國又は其殖民地、或は特に認可されたる大學の文科又は理科の稱號を有するものは、上述の試験合格者と同等の資格あるものと認めらる、

(未完) (醫海時報抄)

通 信

●鈴木寛之助氏通信 (二十九年卒業) (山崎教授宛)

遣英艦隊消息

「ロサイス」より第七信

「スピッドヘッド」の觀艦式場

其廣き列線の方向に約六哩幅約二哩で此の内に一直線に十列に參列艦艇を配列し北から順次にX A B C D E F G H Kと名づけ列線は約南東微東から北西微西の方向に向いて此の列線中C D E F Gの外は海面の状況配列艦艇の種類により一聯の線をなさず三段位に切れてるのもあつて又各列の艦艇の數も必ずしも同様でない其の配列は左の如くである

X 列	驅逐艦十一隻	水雷艇六隻	十七隻
A 列	驅逐艦二十五隻	水雷艇六隻	廿二隻
B 列	驅逐艦二十五隻	潛水艇八隻	小形軍艦七隻 四十隻
C 列	裝甲巡洋艦十五隻	小形軍艦七隻	驅逐艦八隻 三十隻
D 列	戰艦十六隻	裝甲巡洋艦五隻	右以外軍艦六隻 二十七隻
E 列	戰艦十六隻	裝甲巡艦五隻	二十一隻
F 列	外に同一列上少しく離れて西端に商船六隻		
	外國軍艦十八隻		
	御召艦の錨地此の列中に在り		
G 列	海軍用「ヤット」(快船)三隻	外に商船十六隻	

II 列 商船 二十隻

我加茂丸は此の列中四端より第二位に在り

K 列 海軍用「ヤット」一隻 外に商船六隻

外國軍艦の列次は西端より

「ジョーシアス、アブエロフ」(ギリース)。「フイルシア」(スキューデン)

「レジナルドエンテンデ」(ス・メイン)。「ハミディー」(土耳其)

「ナルフェルト、フイツシエル」(デンマーク)。「海拆」(清國)

「ジャコブ、ヴァン、ヒームスキルク」(和蘭)。「チャカブコ」(智利)

御召船錨地

「ダントン」(佛蘭西)。「鞍馬」(日本)。「ロシア」。「ロシア」。「フチン

デルターン」(ドイツ)。「ラテツキー」(オーストリーハンガリ

ー)。「サンマルコ」(伊太利)。「テラウエヤ」(北米合衆國)。「イ

ーズヴォルト」(ノールウェー)。「メノスアイレンス」(アルゼンテ

イン)。「利根」(日本)。

是等參列艦艇を類列し數字を以て示すも亦徒勞であるまい

英國 艦隊

戰艦三十二隻 排水量五十二万四千噸 十二吋砲百七十六門

裝甲巡洋艦二十五隻 排水量三十二万三千噸 十二吋砲二十四門

右以外の軍艦二十一隻 排水量九万二千噸

驅逐艦、水雷艇、潜水艇、八十九隻 排水量五万五千六百噸

合計 百六十七隻 排水量九十九万四千六百噸 十二吋砲二百門

其他の備砲二千四百四十九門 水雷發射管四百二十六門

外國 軍艦

戰艦 三隻 十八隻 排水量十六万二千噸 十二吋砲二十二門

裝甲巡洋艦 六隻 其他の備砲五百六十一門 水雷發射管四十九門

其他の軍艦 九隻

總計 百八十五隻 百十五万六千六百噸

外に「ヤット」四隻

商船 四十八隻 (其他の式場西方覺察線外に於て猶九隻の陪觀汽船あり)

御召船は「ヴァイクトリア、エンド、アルバート」を稱し四千七百噸二十節を有する皇室用「ヤット」である二十五年來「スピッドヘッド」で行はれた觀艦式は

艦式は

千八百八十七年 女皇「ヴァイクトリア」の即位五十年祝典

千八百九十七年 女皇「ヴァイクトリア」の即位六十年祝典

千九百二年皇帝 「エドワード」七世の戴冠式

の時と今回とで四回ある千八百八十七年の古き時代は別とし其他の觀艦式に於ける代表的堅艦を比較して見るに

千八百九十七年 「マゼスチック」 一万四千百噸 十七節五、

千九百二年 「マゼスチック」 一万四千百噸 十七節五、

十二吋砲四門 千八百九十五年の進水

千九百二年 「ロンドン」 一万五千噸 十八節

十二吋砲四門 千八百九十九年の進水

今回 「ネプチューン」 一万九千九百噸 二十一節

十二吋砲十門 千九百九十九年の進水

各艦とも其當時出来上つた許り英國の自慢さつたもので「マゼスチック」は我「富士」より一年早く「ロンドン」は「朝日」と同時代「ネプチューン」は竣工したばかりで各種の公試も觀艦式のために中止してゐる位な最新艦である

是等を比較して見るに英海軍一面より見れば世界海軍の著しき進歩を知る

とが出来今回參列の來艦「デナウエヤ」が最近の竣工に係り二万三百噸二

十一節半十二吋砲十門を備へ奇態な籠形檣を樹て式場の一隅に現時活動し

てる世界軍艦中最大なるものとて睥睨してゐるのも獨逸の「フオンデルタ

ー」が十一吋砲八門を備へ一万八千噸二十五節と云ふも皆各國海軍の進

歩と其勢力を示してゐるのである。これに對するに我新成の鞍馬は遺憾なきが

歩と其勢力を示してゐるのである。これに對するに我新成の鞍馬は遺憾なきが

歩と其勢力を示してゐるのである。これに對するに我新成の鞍馬は遺憾なきが

歩と其勢力を示してゐるのである。これに對するに我新成の鞍馬は遺憾なきが

ら遜色あるを免れず更に之を英國の新裝甲巡洋艦「インデサアティガブル」が一万九千二百噸十二吋砲八門を備へ公試運轉に二十九節と言ふ破天荒の高速力を出したのに比べるに御話にあらう十年前の觀艦式には我高砂が參列艦中の最高速力(二十四節)の艦であつたが今では此位速力は珍らしくいふ。

千八百八十七年以來觀艦式の參列艦艇同年に百三十五隻千八百九十七年の百六十五隻五十餘萬噸、千九百二年の百二十幾隻五十餘萬噸に比するに今回の觀艦式は頗る大きい而して十年前に參列せる艦艇で今回も參列の榮を得たものは僅に戰艦三隻(「ロンドン」「マース」「ブルンスジョーナ」)巡洋艦二隻驅逐艦三隻合計八隻五萬八千噸に過ぎないことや前の觀艦式に列した新銳艦は次の時には既に落伍して僅か其一部しか残つて居らぬことと考へると英國の海軍が新銳々々進みつゝあることが知れる又今回の觀艦式に於ても以前のものと同様英國の艦艇中世界各地に散在せる派遣艦隊を初めとし任務等のために式に參列しないものが多數あることを忘れてはからぬ式に參列したものは本國艦隊、太西洋艦隊の外各軍港の豫備艦とも稱すべきものだけである、但英海軍の精銳は皆式場に網羅されてD列及E列の東半には即ち戰艦及び裝甲巡洋艦の所謂「ドレッドノート」型及び優「ドレッドノート」型のものとは是等より少し前に造られた新銳の堅艦とを集めて編成され世界の威壓して本國艦隊の中堅が控へて居る、我海軍の如く何もかも掻き集めて式場に列せしめるものとは丸で比較にあらうない千九百二年の觀艦式に參列した外國軍艦は十七隻十萬七千噸此内我軍艦は伊集院少將(今の軍令部長)指揮の下に派遣された淺間、高砂及び當時英國で新成の驅逐艦朝潮の三隻で一万四千九百噸今回の鞍馬と排水量略相等しい又今回參列の外國軍艦で以前の觀艦式に參列したものは露國の「ロシア」(千八百九十七年)及智利の「チャカブコ」(千九百二年)の二隻である今回の參列艦中第一に推すべきものは

最大排水量の軍艦 「デラウエヤ」 (米) 二萬三千噸
最大全長の軍艦 「インデフアティガブル」 (英) 五百七十八呎
最有力備砲の軍艦 「デラウエヤ」 (米) 十二吋砲十門
最高速力の軍艦 「インデフアティガブル」 (英) 二十六節(計畫速力)
最高速力の驅逐艦 「スキフト」 (英) 三十六節(計畫速力)

千九百二年の時には最大全長の艦は佛艦「モンカーム」の四百五十二呎最大排水量の艦は英艦「ロンドン」の一万五千噸であつたのに比較すると其の差が實に著しい、更に眼を轉じて式場に鹹つて居る將旗の數を調べるに英國艦隊に大將旗二、中將旗四、少將九、代將旗一、外國艦隊に中將旗三、小將旗三、代將旗三、合計二十五人の將官及び代將が居る一ヶ所に集まつて見るに少くない前回には英國の將官は總て七人であつた、是等諸点を考へると此の十年間世界海軍の膨張進歩は頗る急速で躍進的に突飛で將來も益々此の趨勢を増進するのみであらう

實に一秒一瞬も油斷の出來ぬ世の中と言ふことが知れる

六月二十四日にあつた觀艦式の當日である西風強く白浪を洗つて居るが前日來の雨に幸に止んだ空は猶陰雲雨雲低迷去來凄く見えなが時經るに共に斷雲日光を漏らす様にあり一同安心した式場參列及陪觀商船の多數は此日早朝各其位置を占め加茂丸も此時錨地に就いた朝來大小各種の船舟乗客を滿載し艦列の間を過ぎて觀覽するもの引きも切らず乗客には帽子を振り手巾を振つて行くものもあつた浪が稍や高いため來往の小艇は潮を浴び大分大きき船と相應に搖びて居る

午前十一時半英艦に倣ひ正服を着し正午全英艦隊指揮官「ムーヤ」大將の旗艦「ロートネルソン」からの信號により各艦滿飾を行ふ、萬葉の花は一時に開發し觀艦式場は茲に偉大なる美觀を以て飾られ五彩の祥雲天際より降つて式場を包み大英帝國國主の大禮に更に幾層の瑞光を見ることも謂ふべく壯麗偉觀人目を新にするものあり此の上に幾千百の紅白青黃黑綠各色相交

かる旗流は強く西風に吹かして翻々翻々如何にも活氣満々一点の情氣をも見せず意氣天を衝く偉丈夫の如き觀がある嗚呼雄なる哉此艦隊偉ある哉此堅艦天下に雄視して祖國を守り列國代表の各艦亦毅然として國風を旗章に體へし相共に人國を守り世界の平和を擁護して今茲に日没することなき帝國皇帝の祝福を祈る「スピット」の海陸若し靈あらば此榮譽に對しまさに如何ある辭を以て答ふるであらう

是まで滿艦飾を見た人は多からう而も自身艦上にあつて之を行ふを見た人は極めて少數であらう且つ列國軍艦同時に之を行ふを見た人は更に少からう而して此の日我艦上に在つた在英の同胞は海には縁近きも可くして却て縁遠き我國民中極少數のものさ數へらるべき人となつたのである、殊に各國軍艦が各其國を代表し各自の特色を有する旗章の特殊ある組合せを以て滿艦飾を行つた所を觀たのであるから初めて入は珍らしく壯麗に感じたるう幾度も見たことのある人は前に見た所と現に見る處とを比して更に感想が新しいだらう之に對し吾人は是等の人々の感想を聞くを得たふらば興味深いことと思ふ

兩陸下

は午後零時三十分「ボーツマス」停車場に御着御召船「ガラムネリトエトアルバート」に御乗船次で船は徐々行進を起し港を出て左轉東向南進して式場の東方に進む式場の海面は警衛の諸艇が所々に漂泊して居る外は一切通航を禁ぜられ肅然として御召船を迎ふ一時二十五分 御召船の式場に近くや英の旗艦に倣ひ登船式を行ふ全三十一分を以て二十一發の皇禮砲を行ふ、百數十の各艦から發する禮砲の砲煙は疾風に順つて東しつゝ海を蔽ひ砲聲風聲相和して壯更に幾般の壯觀を加へ活躍たる元氣の式場に横溢瀟灑して此の際此間を 御召船はE列とF列との間を東から入つて西航す、先驅は水雷艇四隻 御先導は「トリニティーハウス」の快艇(ヤット)「イターン」之を承り次で御召船供奉として「ヤット」二隻「アレキサンドラ」「エン

チャンテレス」「フティヤクイン」の順序に隨航し殷賑は又水雷艇四隻て警戒して居た

御召船

の艦側を過ぐる時我艦では「奉賀」の祝聲三回衛兵隊は捧銃の禮を行ひ「君か代」を吹奏軍樂隊は英國々歌を奏して敬禮を行ふ各艦さも略同様に敬禮をかし莊嚴なる御親閱各員肅然誠を致して迎へ奉る

皇帝陛下

は海軍元帥の正服を召され双眼鏡を手にして御召船の艦橋に立たせ給ひ各艦の敬禮に對しては一々舉手の答禮をなさせ給ふを拜した我 御名代の宮兩殿下は 御召船に御陪乗あらせらる、供奉の「ヤット」は各國の皇族御近親の人では是等の「ヤット」て供奉するを得たのは東郷大將唯一人で大に特殊の優遇を與へられたものと謂ふことが出来る 御召船は式場の西端に達し右轉反針してD列とE列との間を東航し兩側の各艦は之に敬禮し終りに御召船は下F列とG列との間を更に西航す此時F列各艦は前と同様の敬禮を行ふ、變て御召船は佛艦「ダントン」に智艦「チャカアコ」の間を豫定錨位に投錨して御親閱を終らせ給ふ時に午後四時五十分

御召船投錨後直ちに我長官及利根艦長は御召船に召され英國將官及各國司令官代表艦長と共に拜謁を仰せ付けられた、午後五時二十分還御仰出され御召船は拜謁諸官乗船の儘投錨しE列とF列との間を東航して「ボーツマス」に歸港す即ち御召船は外國軍艦の附近を四回通航したとさる各艦登船式及其他御親閱の際と同様に敬禮を行ひて奉送し五時四十三分皇禮砲を行ひ茲に空前の大觀艦式は莊重に終りを告げた

四時五十八分英汽船「ブラッシ」各國大使公使御名代特使隨員等を載せて式場内を通航陪觀す乃木大將などは此の船に居られたのである

還御後式場内船艇の通航を許され幾十隻の汽船舟艇は御親閱後の式場拜觀にさやつて頗る賑はつた

午後九時五十二分各艦一齊に電燈艦飾を行ひ十一時に至る「スピッドノツド」の海は天上の星一時に降つて此の世を飾れるか疑はれ金珠明玉夜光の寶珠幾万千と連りて壯麗譬ふべき形容詞もふい此夜長官より海軍大臣に打電報告されたものを記して此の記事を結ぶ

本日稍風波ありしも快晴戦艦三十二隻裝甲巡洋艦二十五隻其他小艦艇百十五隻、外國軍艦十八隻の觀艦式は豫期の如く極めて美事に行はれ我兩殿下は御召船に御陪乘東郷大將は「ヤツ」エンチヤンデトスにて供奉御親衛後本職及び特に利根艦長は御召船にて拜謁被仰付 兩陛下龍顏殊に麗しく御満足に御見受す又戴冠式當日本職面艦長は「アペー」にて幕僚二名士官十一名は海軍省附近の席にて拜觀の榮を得たり不取敢報告す 在英日本人は我艦隊から觀艦式觀覽を兼ねて「アトホーム」に招待されたが倫敦停車場の混雜と瀟車の時刻が厳正に行かぬかつたさかて來艦することの出来なかつた人が多數あつたのは今猶互に遺憾としてゐるに角御客様は多いと言ふので兩艦に分つて接待した汽船で來賓を迎へ棧橋にも夫々士官が行つて幹旋したが何にせよ世界的に大混雜と來てるので迎接中々困難で他の國の艦へ行く人が間違つて我艦に來たふと言ふ滑稽もあつた 艦では將官室以下士官次室に至る各室を裝飾して御客様を迎へ士官以上總員で來賓の接待役をやつた來艦した人は招待された人の一部に過ぎないけれどそれでも中々に多人數で接待役は繁忙を極めた來賓は大使官の山座參事官を首めとし英國及大陸諸國駐在武官外交官新聞記者各銀行會社商會員及夫人等六十餘名で各室に溢るゝ程の大繁昌先づ艦内拜觀これが濟んだ所で舊友に挨拶するもの新しい知己と語るもの休憩所に充てられた各公室に入つて茶菓に息をついたものもあつて接待するものさるもの他人入らずの同胞新知も舊識も互に嬉々として万里の異邦に手を取りて語る斯んが愉快さこそはふい殊に日は同盟國皇帝の戴冠式に續ての大觀艦式の日、所は英國「スピットヘッド」の觀艦式場の艦は釘一本も同胞の手で叩き造られた、我新

銳の堅艦馬と利根、縦から見ても横から考へてもどーしても互に衷心から壯快を感じずには居られなかつた次が晝食、和洋折衷東西混交の御馳走「ピステキ」あり漬物あり日本酒あり酢あり「サンドウキツチ」あり「シヤンペン」あり生魚は英吉利海峽産、干物は日本から持つて來たもの果物は米國からの舶載品野菜は大陸のもの之に加ふるに是迄の寄港各地で積込んだ品物を以てす東、西万里山海の珍味と云ふ素敵が御馳走其味の美いことも亦素敵に角此の時此地で一所に味うた人でなければ迎も分らぬと吹張して置かう此の上東西各國煙草の烟は正に之れ豐饒たる淡霞で飾られた満室の櫻花を望め和氣霽々春日の如くてあつた、夜に入り電燈艦飾が行はれた後來賓は迎へられたと同じ汽船で記念すべき日の忘れ難き記憶を載せて歸り去つた斯くの如くして吾人の重任たる觀艦式參列は滞りなく終了し茲に任務上一大段落を告げた譯である

英皇兩陛下は二十五日「ポーツマス」に御駐蹕（第六信第一葉の終りに二十五日還御と記載したのは二十六日の誤りで二十五日は「ポーツマス」に御滞在あらざられたのである）二十六日午前十時過ぎ「ポーツマス」御發轫倫敦へ還御あらざられた英艦隊旗艦「ネプチューン」に倣ひ皇禮砲を行つて奉送した午後より夜にかけて英海軍側の催して園遊會舞踏會等が行はれ我長官以下士官數名招かれて參會した後者は來會者二千餘名頗る盛會であつたさうだ

此の夜鞍馬の士官で英艦「ネプチューン」「キングエドワード七世」「コーリンググッド」及驅逐艦「サラヒン」の士官各數名を晚餐に招待し「ポートルンド」着港以外相來往して御世話にあつたり晚餐に招かれたりした御禮を兼ね愈々明日出港と言ふので御別れの宴を開き御客様を士官室士官次室に分ち迎へて接待し愉快に手を持つて別れた

二十七日にも各所から二三の招待があつて夜は「ロヤルネーヴァアルパラツク」で英艦准士官の催にかゝる舞踏會が開かれ我兩艦から兵曹長、准士官

十四名招かれて出席した美しく飾られ煌々と照らされた大廣堂に觀艦式參列十七ヶ國軍艦から來會した准士官と主客合して七百餘名互に手を取り合つて舞踏幾番夜半過ぎに及んだ我准士官達は大に欺待されたが舞踏を勧められたのには何も知らぬので少々不面喰つたものである元來舞踏なるものは歐米諸國の交際場裡に於て必要欠く可らざるものであるが吾々は知らふい特別の必要や事情に迫らるゝ人は兎に角吾々は之を知るの要が、いと思ふ、吾人は是を知らぬがために夜會などに往つても隨分閉口することもあり手持無沙汰に困ることあるが是を知るの必要はないと思ふ之れ以上書くのは止めとして茲に謹んで變からざる舞踏不賛成論を提出する此の日は英政府の外國軍艦接待の最終日である各外國軍艦に士官一名宛を派遣乗艦せしめ陸との交通用汽船を貸して呉れ又專屬の水雷艇を置いて郵便物などの授受もやつてくれたりして便宜を圖り其他の接待万事到り盡さるゝのかつたことは特に感謝の意を表する所である

倫敦では此の日午後「パツキンガム」王宮に於て盛ふ宴遊會が催され各國御名代宮特使を首めとし隨員なども參會の光榮に浴したとのこと此際英皇陛下には特に東郷大將を御前に召されて朕は去る土曜日朕の艦隊を親閲せり時日本軍艦の活容雄姿を觀て大に感動したりと有り難き御言葉を賜つたこれは既に新聞紙上で御承知のこととせうが茲に特筆する

英皇帝陛下

觀艦式に關聯して英皇陛下及び皇室の御事につき僅かながら是非記したいと思ふ

皇帝陛下は千八百六十五年六月三日御降誕「エドワード」七世陛下第二の王子に在まし寶壽實に四十七歳御兄宮殿下薨去の後皇儲さからせ給ひ昨年五月六日「エドワード」七世陛下の後を承けて帝位を即かせられたのである、千八百七十七年十三歳にして兵學校生徒として海軍生活に入らせ給ひ超にて七十九年少尉候補生として兄宮殿下と共に巡洋艦「ハッキヤンテ」に御乗

艦八十二年まで御勤務此の間世界を巡航せられ日本にも行かれ給ひしことがある爾後幾多の艦に勤務し給ひ千八百九十八年から翌年にかけて大佐を以て「クレスセント」艦長の職務を執らせられた、該艦は吾々が五月下旬地中海航行の際無線電信の交信をやり「シアナルター」に入つた時相會した艦である陛下が海軍々人として優秀卓越にわたらせらるゝは英國のために誠に慶賀すべきことである今陛下が艦艇に御勤務中の多數の逸話の其一を紹介する

一八九九年の演習に際し陛下は水雷艇七十九號の艇長として參加し給ひ或時一小分遣艦隊に屬して一港に入り敵襲の虞眼前に迫れる危急の夜僚艇二隻と共に哨戒の命を受け日没後から天明まで港外に出て任務に服された其後風波大いに荒れたけれど事無く過ぎて翌朝歸港の途上一艇に大破を生じ沈没に瀕したが該艇は是を免かれんがために風下方向の陸岸に投錨せかければふらふい程にふつた此の時七十九號は直に救助に赴き他の一艇は港内の艦隊に急を報ずべく歸つた間もかく七十九號艇も舢舨し艇備唯一の大索を用ひて曳かうと試みたが成功せなかつたことを報じた状況は極めて危急で破損艇の救助は一秒も猶豫出来ぬ時であつた七十九號艇長たりし陛下は他の方法に依つて更に救助を試むべく前宵徹夜風波と戦いて疲勞せられ居給ふに係はらず部下を勵まして慧敏に努力を新たに一條の麻索を得て直ちに再び救助に赴き破損艇員を激勵して遂に救助を成功し無事破損艇を港内に曳き歸らせ給ふた此の救助作業は機敏時宜に適し巧妙なる運用術の實例として經驗に富める老巧ある將校も是以上の働きをなすことは出来な

いである一當時に嘆稱されたものである
英帝國は上に此の皇帝を戴き下に海に親しき友を有す海上王として天下に雄視する故なきに非らずと言ふべしだ而して親王殿下は多く身を海軍に於かれ給ひ現に海軍に在らるゝは皇太子「ウエールス」親王殿下御年十八歳及第二の皇子「アルバート」親王殿下(御年十七歳)である

女皇陛下

は御名を「メリー」と申上げ千八百六十七年五月二十八日御降誕千八百九十三年七月六日御婚嫁遊ばされ前御二方外「ヘンリー」親王（御年十二歳）「ジョーパナ」親王（御年十歳）「ジョーン」親王（御年七歳）の三親王及び「メリー」内親王（御年十五歳）の四殿下を擧げさせ給ひ同盟國の皇室は彌が上に榮に繁り行かるゝは誠に御日出度至りて吾人の欣賀に堪ぬ所である、吾人觀艦式に關する筆を止むるに當りこれを以て記事の終尾を飾り得るの光榮を有す

此の日（二十七日）及び二十九日の兩日我兩艦の准士官下士卒は倫敦市及び同市在留日本人の好意によつて倫敦見物をあすを得て一日半數宛早天出發上倫敦刻販艦した未だ知らざるの地に入るは未だ見ざるの書を讀むが如し汽車轆轤倫敦指して疾驅するの樹木はよく培養保育されて綠滴たらん許り樹下草野は牧場として綠氈の如く仕立てられ牛馬又羊の三々五々群をゑとして悠遊せる眼の届く限り能く手入され國土全部公園かと思はるゝ繪の如き英國田舎の風光を眺めつゝ時計の針の一秒一秒進む間に變り行く窓の景色を觀しつゝ想像さるゝ世界第一ある倫敦市の風色や如何あらん名も高き倫敦塔に倫敦橋聖「ポール」の大伽藍偕は戴冠式行はれた「ウエストミニスター」の古寺院將た「テームス」の流れや如何に街上行き交ふ人や車や馬や抑もどんふであらう市街の有様は嘸美しいことだらうなごゝ楽しく愉快に夢想しつゝ流車の走るも遅しき感下あから午前十時半に世界に名高き水晶宮前の「ベンザ」停車場に下車六百幾十名の人員此所で二つさきり別れくゝに見物と出掛ける水晶宮を見るものもある市街見物は自働車十幾臺に分乘し在留日本人の案内に従ひ生馬の眼を抜く位のこととは未だ優しい方世界の繁華と多忙さを一所に集めた其倫敦市の目貫の場所ある「ホワイトホール」から「チャーリングクロス」「トラファルガースクエア」で名將「ネルソン」を偲び「モール」を経て「バツキングラム」の王宮「ウイクトリア」女皇

紀念像を觀「ウエストミニスター」寺院から立憲政治の本案ある此國の上下兩院の議事堂を過ぎて猶幾多の街衢を見物し再び水晶宮に戻り夕方此所を發して歸艦

倫敦と云ふ所は霧と煙とで年中立籠られ冬期濃霧甚しい時には日中鼻を摘まなくてもわからぬ位だと聞いたが我下士卒に見物の時には兩日とも半曇位で済んだのは幸であつた愈々倫敦に入つて見るゝ家と云ふ家は眞黒に彩られて薄暗い様か感があるが何となく滋味を持つた奥床しい難有味のありそうに思はれる点もある何の用があるか知らないが朝から晩まで倫敦子を首さし全世界から集つた何十万と云ふ人が驅け廻り汽車電車自動車乗合自動車各種の馬車荷馬車、箱馬車から牛乳等の馬車に至るまで何百万何万と云ふ車輛が縦横に馳せ違ひ「ピツカデヴィーサーカス」とか「ハイドパーク」の「マーブルアーチ」などは車馬の交通殊に頻繁で一日何万と數へらるゝか車の海に四角か大きな家が浮いてると思へば宜しい加之地下鐵道が盛に活動して而して自動車が多いこと東京の人力車の數ほど到底比較にふらふい車の流れ絶へ間なく道路を横切することは大困難そこで車の海の中にある島まで渡り時機を狙つて更に道の半分を通るゝ云ふ方法が用ひられてる此ゝ所え唯一人放されたゝすれば如何「僕は何處に居て僕が行く處は何處ですか」き聞かればふらふかる即ち車の海の島に踏み止まり地圖を廣げて位置を見究め方向を定める斯る吾々に道を聞く人さゝある流石倫敦は廣くて大きい

潮の干満の差の大きいことが大いに價値あると言はるゝ「テームス」河は隅田川より大分廣いが同様に濁れる水が滔々と上り下り船を浮べて千古渝らず流れつゝ「タワー」橋は大船が橋下を過ぐる時高く擡げられ馬糞の瀑を落してゐる

公園に行くと「此樹折りとるべからず」かんで立札は立しも見當らぬ雀や栗鼠は人を友達の様心得て人の手に來て物を食つたりあどしして是等は誠

に羨ましい處で日本などには決して見られぬ圖である、動植物を害し虐めぬことゝ公徳心の發達してゐることは他山の石以て我珠を磨くべしと今更の様に感じた。

此行要せし諸費は總て在倫敦日本人の寄附にして加ふるに非常なる好意を以て案内の勞を執られし愉快に一日の見物をあすを得た茲に倫敦在留日本人の好意に對し深謝の意を表す

最後に前便の遺漏を補ふ 六月二十一日から二十三日まで綠威海軍大學校に宿泊した一百餘名の各國海軍士官の集團、各自自國の制服を着し宛然たる士官の共進會で頗る奇觀壯觀これが一國さかづいて戴冠式行列觀覽に行くのである觀に行くのやら觀られに行くのやら一寸分からぬと言つた様さ風であつた此の十七ヶ國の士官に加ふるに英國側の士官を加へ十八ヶ國さかつた此の場合にも斯る集合はあつたけれども三日二夜同じ所に泊し同じ所で食したと先づ珍さすべきものであると思ふ

軍 艦 鞍 馬

●歐洲旅行記

在獨逸 辻本辰之助(卒業)

▲八月十九日 平野丸は午後三時神戸を出帆する云ふので、二時の小蒸氣で乗込んだ、甲板には送らるゝ人送る人で一ぱい、事傳を頼む者、別を惜む者さまゝあつて、此所は宛ら海上の停車場の様だつた、やがてグララングララン銅鑼が鳴つて、出帆時刻の迫つたことを知らする、見送人は船橋を行列して降りて行つた。いよゝゝ出帆さるゝ、ゴトゝゴトゝ船底を叩くやうな音がして、間もなく水を吐く音が聞けると、船は徐かに動き出した、送らるゝ人も送る人も、皆手巾を振り、帽を振つて「御機嫌克う」、「御大事に」の語を交し合ふたが、嬉しい中にも何ささく悲し

いやうな惜しいやうな感が胸一ぱいにおつた、誰も皆そんな感を懷いたらう、やがて棧橋に居る見送人は次第に小さくなつて来て、最早見はかくおつたから、まづ喫煙室へ入つた所、此所に圍らずとも同業者四人に邂逅して互に名乗り合ふた。八時の銅鑼で食堂へ入ると、司厨長は席次を示した、一列は外國人で、一列は日本人、倫敦行は上席で、次はマルセイユ、道の遠近順である、予は十二番で、日本人側の真中とある、夜食後は入浴する、薩張りして好い心持だ、間もなく吾等醫者仲間五人は喫煙室へ入り、親睦を結ぶ印として麥酒の杯を舉ぐ、吾等の級の船客は歐洲人、印度、支那人、及び日本人の四個國の寄合であつた。又、この日子は祝電數通を受けた。

▲八月二十日 いつも寢坊の予も今朝は五時に起きた、顔を洗はふと思つたけれど水がない、そこで同室の某に呼鈴の在り箇所を尋ねると、某は如何にも知たか振つて、是だ云ひながら、電線のある所を押せど一向にボーイが来る様子が無い、仕方がないので手をパチ／＼叩くと、やつこの事でボーイはニコ／＼してやつて來た、そこで、まづ呼鈴の在り箇所を聞くと、床の側にあることを教へて呉れた、見はかき、窓掛で隠れて居たのである、そして某の弄つたのは、焉んぞ知らん、電線の接ぎ目を隠してある部分であつたので、噴き出したくあるほど可笑かつた。

八時朝食を終へてから甲板に出たが九時半門司に投錨した、瀬戸内海の山紫水明の景色は拙き筆の及ぶ所でもない會て日露戰役凱旋の際、この風光に接して奮躍したが、今又此の景に再會して、萬感交々胸中に湧いた。午添二時同僚五人相携へて上陸し記念撮影をふして、各自一葉宛郷へ送ることゝした。夫れから各自に自由行動を執ることゝしたが、自分は横山君さ關門連絡船に搭じて下の關へ上陸した。そして諸方を見物した後、魚卵で夜食を了へ渡し船で漸く本船に歸つたが、關門兩市の燈火は水に落ちて恰も「イルミネーション」を觀る如く、その美しさは譬へやうなかつた。

▲八月廿一日

正午門司拔錨、一同甲板に立つて關門の山容水態を賞し地圖と首つ引で、彼處の岬、此處の島を指呼した、午後一時若松岬を左舷に見次いで六連島、支海島を迎へ、鑢て船は支海灘に入つたので、船が僅かに動搖し初めた。そして、五時半對馬海峡を通過したが、此時日本海の大戦の壯觀を追想せずには居られぬ。予等一同室に和歌山人で小山と云ふ男が居たが、現今は新嘉坡に店を有つてゐて年二回歸朝するのだと自ら話してゐた予は小山氏の茲に至つたのには、必ずや面白い經歷があらうと思つたので、聞いて見るを果して興味ある歴史を有つてゐるのみならず、正に氏は立志傳中の一人であることを確めた。彼の略歴は斯うである。彼は今を去ること二十餘年前一万有餘圓の資産ある家に生れた末子であつて、自らは資産の分與を受くることもあつたので、空手大阪へ出て下駄屋を営み、困苦精勵して數百圓を儲けた、けれども午後病氣にあつたので、折角蓄積した金圓も忽ち費消して了つた。そこで止むなく藤を賣買する店の番頭に住込み、外人と見知れる以來醜然として外國行の野心を起し、歸國して旅費や資本金を家兄に頼んだけれども、一厘も讓與することはあつた。然るに彼の母は流石に慈愛に富んでゐて、自分の衣類數十點を質に置いて二十圓を拵へ、そして彼に與へた、彼は此の情の籠つた金子を懷にして渡海し、二十年間熾くが如き炎熱と戦ひ艱難と戦ひ、遂に今日は成功して數十萬圓の財産を有するに至つた云ふ、そして渡海の際には妻の里よりは離縁を迫られ、家兄よりは厘錢の惠あつたのに、今日の身とあるや、皆彼の鼻息を窺つてゐると云つて彼自ら大笑してゐた。——が予は彼の物語中、二十年前の彼の渡海の勇氣と云ひ、又彼の母の慈悲と云ひ、又妻の兩親より離縁を諭されたるを肯ぜず、纖弱なる女性の夫と共に萬里の異郷に共稼した健氣が心と云ひ、共に吾々に大なる教訓を與へるものであると深き感動に打たれたのであつた。

▲八月廿二日

朝七時半起床、生れて初めて自分で髯を剃る、安全剃刀

だが案外に旨くゆく、朝食を了へてから甲板に出たが、實に何れを見ても一望際涯なく、終日島影を見ず、只僅かに二艘の漁船に逢ふたのだつた。船中に若き洋人の夫妻があるがその情交の濃厚なことを云つたら、まるで練乳のやうだ、口惡の某は「その暑き加減に見るに堪へぬが、でも船中の無聊を慰する一材料か」と云つたので、一同は笑はずに居られぬ。午後三時頃、郵船會社支店長が眼病だから診察して呉れど事務長から頼まれたが、檢眼鏡は船にも備付ないゆゑ、上海着の上再診しようとした。それから甲板の上で、輪投げ、甲板玉突が初まつたが、洋人も加はつてナカ／＼盛んであつた。

▲八月廿三日

晴、朝食後甲板に出ると海水一面が黃褐色を呈してゐる、聞けば楊子江の河水の混濁するに因ると云ふことだ、船員は、船が河口に入つてゐると云つたから、岸が見ぬるかと思つて右を見ても左を見ても、一向岸が見ぬふんだ、河口が廣いからである。其内兩岸が次第に現はれて來た且つ次第に相迫つて來た、幾艘となく大船巨船が棧橋へピタリと横付にあつてゐるから、その深さも思ひ遣られる右岸には高層の洋館並んでゐる、「ランチ」、「ジャンク」の往來織るが如く、又陸には幾千の勞働者が右往左往し、まるで蟻の子が砂糖の粉を運ぶやうにいる／＼な貨物を運搬してゐるが、是れ上海である！鑢て船は投錨した。

上海に支那の通商碼頭中最も繁昌な所て、百貨常に幅濶してゐるが、此港は實に清國內外貿易の中心たるのみならず、實に東洋貿易の中心點である。停船するや直ぐ多くの支那人が船へやつて來た、雜貨屋も居れば煙管屋も居るそれから繪葉書屋、子供の手品師、兩換屋等それは／＼種々雑多の者がやつて來た。しかし彼等は商賣の傍ら、間が善い／＼船室へ入り込んで、手當り次第に搔々淺びをやること云ふので、船室の扉はピタリと鎖された。予は試に日本貨幣一圓を出すと支那金一圓二十五錢を渡して呉れた、支那金は悪いかも知れぬが、餘計に呉れるので、何だか豪くあつた氣がした。

そこで、吾等同僚六人組(門司から一名殖また)中食後上陸して諸所を見物に出掛け、人車の往來織るが如くであか／＼繁昌なものだ、暑さの烈しいのには、誰も彼も閉口して眩暈を起さんばかりだった。途中給葉書求めて故國の知己へ出したが、此所からも一錢五厘は安いものと思ふ、又妙な感じがした。何分初見參の土地ゆゑ、出來得る限り所々探検しやうと思つたけれども、暑さの烈しいの支那街の一種の臭氣さには一同辟易して勿々歸船し甲板で涼を納れてゐるさ、そこへ三つばかりの支那の小供がやつて來て、予の膝の上へ登つて戯れた、そして母親が喚べど招けど、これに應じやうとはせず、嬉々として尙打戯れてゐたが、小供は何處の國のも同じで無邪氣なものだ。

▲八月廿四日 晴、六時半起床、甲板に出た、貨物積載に用ひる起重機の音は旅順で聞く機關の音のやうで騒々しくつて嫌ふ音だ。事務長が來て「漸く検眼鏡を手に入れたから検診を乞ふ」と云つたら、二人で急造の暗室を拵へた、そこで支店長を検眼した所、硝子体混濁を發見した、氏の爲めに同情に堪へぬ、検眼を了へてから數刻雜談してゐたが、やがてゾク／＼と惡寒がして來て、体温が三十九度五!さあ、事ださ早速冷靈を當て寝た、神經が充つて、胸中不安の雲に襲はれたが、運は天に任すさ高を括つてゐた所、いつか夢に入つて居た、ホーイに起されて粥一杯をすゐる、旨い事だった、思ふに昨夜喫煙室で轉寢して風邪を引いたのだらう。

▲八月廿五日 晴、今朝熱なし、船醫、事務長、支店長、六人組等皆見舞に來て呉れる、深切なものだと感謝に堪へぬ、朝食には又もお粥と梅干さやる、昨夜より一層味覺が確かにあつて來たので、まづ／＼一命を拾つたと一安心する、氣も清々として來た。

船火事があるさ云ふから、早速甲板へ出て見るさ本船より三町ばかり下流に繋留の白、赤二艘の約三千噸ばかりの船が火災の眞最中で、炎々として立ち騰る烟は天を焦さんばかりだったがやがて赤い方は消し止めた。けれ

ども白い方は益々盛で、見る／＼橋が倒れる、甲板が落ちる、船室からムク／＼と烟を吹き出す様は、見る／＼に物凄く若しこれが大洋の中で起つたあらば、人命にも拘はらんさ他所の事からずと思はれた。そして、以來は船室の喫煙禁制を一層嚴重に守らうと思つた。午前十一時い／＼抜錨となつて、洋中へ出たが、午後五時頃から船体の動搖が頗る猛烈となつた、八時夕食後船房に入つて靜臥した。

▲八月廿六日 晴、八時起床、熱なし、彌々回復さ元氣づくも食慾は起らんない、船の動搖益々盛にして、食堂に入るものは一人もふかつた、ホーイは粥を室に運んで呉れた、そこで起きて吸らうと思つれば、眩暈するのみあらす嘔氣を催さて、同室の者は皆横臥の儘吸り込んでゐた、我れも、實に哀れであつた。晝食も亦同様横臥の儘吸り込んで、その内尿意を催して來たが起つて便所へ行かんさすれば亦嘔氣を催すので、詮方なく膀胱の緊満力に信賴して仰臥したが下腹の方が随分苦しかった。今夜十一時臺灣海峡を過ぐ、さすれば風は追手さある故、動搖も止まる」この船員の言に慰められ臥床に就く、偶々一波余等の船室の廻廊に飛込んで來た、又同所の風窓より雨は瀧と流込んで來た、するさ、波除や、戸の閉鎖に船員の靴音が忙しく聞けた。

▲八月廿七日 狂瀾澎湃として天日暗く船の動搖烈しきこと前日の如し午後八時に至りて風波幾らか軟らぐ、食堂へ出て見るさ、卓上の食器には、この墜落を防ぐ爲め杵を當てゝあつた。

▲八月廿八日 晴、今朝五時半起床、右舷に島を見る、又小さき漁船の散在するを見得て、陸近きを知る、今朝香港に入る豫定だった、前日來の颶風の爲め海上に約一日漂泊したので、明日あらでは入港するを得ずと聞き一同落膽す。因に昨夜の大風は本船七航海中未だ曾つて遭遇せざりし程の烈風だったと云ふ。

▲八月廿九日 晴、六時起床するさ船は將た香港灣に投錨せんとする所

であつた。香港山の頂上や半腹にある閑雅な洋館が如何にも鮮かに見える。灣内の船舶の往來織るが如けれど、頻繁なことは上海には落ちる。けれども山高く水翠であつて、何となく箱根の蘆の湖附近の趣があつて、見るから清爽な景である。六人組は朝食後、早速上陸して清風樓の客とあつた、して日本料理に舌鼓を打たうと云ふことになつたが、そこで又、兎も角ケーブル、カーに乗つてから後の事にせうと云ふことになつた。早速ボーイの案内でケーブル、カーに乗つたが、三等に區劃してあつた。丁度電車位の箱だが、乗つたかと思ふと、頂上にある機關の裝置に據つて一條の鐵鎖は幾十人の生命を支配して、忽ち箱を引き上げるのである。途中で箱が逆立ちするほど急峻な山だが、何の事なく登り詰めることが出来るのだ。そして、登り詰めた所で下界を眺める、我等の乗つてゐる八千五百噸の大船も宛て刺網網の舟ほどにしか見ぬ、それゆゑ小蒸氣船なんかは木の葉より小さくあつて見える、いくら機械の力では云へ、能くもこんな高い所へ、こんなに容易く登れ得るもの哉と我ながら感心する、そして、頂上へ昇る途中、何となく耳が遠くあつたやうな氣がして、驢て元の通りにあつたが、これは氣壓の關係上鼓膜に影響を與へたことが後にあつて氣がついた。降りてから、早速日本料理をやる。

我等六人組は日本飯が喰ひたいばかりに此樓に泊つたのだが、料理は日本ので食へぬこともないが、飯が南京米で餘り感心せぬ、しかし、何れも旨い旨いでスカ／＼とやつてゐたが、揃ひも揃つて外國に永住し得ない連中ばかりだと思つた。

▲八月三十日 晴、昨日、注文しておいた白の夏帽、籐の椅子を支那人が持つて来る、帽の寸法は眞面目な顔して取つて行つた癖に馬鹿に小さい、此奴め、出来合を持つて來たに相違ない、小言を云ふも仕方がない、出帆に間もないので閉口する、しかし無いより益だと思ひ、代金三圓を拂らつて買ふ、籐の椅子が一圓五十錢は減法に安いから、誰も彼も此地で買ふ

慣例にあつてゐるさうだ。午後三時、香港を抜錨後食後床に入つたが、毛布が減じて敷布様の物二枚のみとなつた、これから先が暑くなるからだと思ふ。

▲八月卅一日 晴、七時半起床、朝湯に入つてから朝湯をやる、甲板上の風涼しく海の色著しく藍色を帯びて来る、午後にあると、來月二日一等室の上甲板で『迷夢』ある藝題の下に、船員連の素人芝居が演ぜらるゝこの揭示が出た。そして和洋兩文の筋書が一同へ配布された。

▲九月一日 晴、七時起床、風呂に入る、下劑を服む、十二時頃右舷邊に西貢を望む、今日の夜食は日本料理だといふ噂が擴つたので、一同は唾を呑んで喜ぶ、波が高まつて來て、動搖稍強くあつたので、平常より三十分早く夜食にあつた。食卓には鯛の刺身、焼牛肉、豚汁などあつたけれども、待つてゐた程旨くない、第一南京米が氣に喰はぬからだ。

▲九月二日 晴、午後八時、例の素人劇『迷夢』を見る。筋は藝者上りの侯爵夫人と出入の醫者と共謀して、侯爵家の財産を横領せんとするのだ、道具建は繪を畫いた幕に盆栽おどだ、予の室付のボーイは其の醫者を渡るこのことだが、予は香しからぬ役を引受け上つたなと思つたけれども是非あかつた、吾等六人組の各室のボーイは何れも出演すこと云ふので、吾等は意匠を凝した目錄に祝儀を添へて贈つた、目錄は直ちに觀覽席に張り出された。惜しい、こゝには波の音と風の音とで役者の臺詞が聞え取れ難かつた。肝腎要の愁嘆場で、クス／＼笑ふ役者連だから寧ろ滑稽だつた。中入十五分間揭示に、右舷側の模擬店へ往けとのことだつたから吾等に行つて見るさ、アイスクリームやサンドウィッチを御馳走して呉れた。再び開演の最後には船名に縁んだ平野踊で幕を閉じた。

▲九月四日 シンガポール普通譯兼案内者を伴ひ、二輛の自動車を僦うて、植物園、水源地、日本人墓地を見る。此地の植物園は世界有名なもので熱帶地方の異花珍卉を蒐集してある。一樹一葉と云つたやうな奇妙さで

れつ、植物もあつた。又縁溝るばかりの丘岡を圍らしたる潜水池の邊に立てば空氣水の如く涼風腋下に生ずれば、赤道直下にも斯る處あるやと怪まらるゝ位だ。又護謨樹栽培の模様を眺め、夫れから日本人墓地に到つたが、幾多の辛勞を嘗め多くの希望を抱きながら不幸にして異國の土に化せる憐れある同胞の亡骸を埋めたる地ありと思へば轉た感慨の情に堪へふんは生來未だ曾て佛前に額づきたことのない不信心者だつたけれども、茲に至りて忽然後生氣が起つたので、餐錢を投じて暫く合掌祈念を凝した。我ながらこれ實に旅行の教訓ありと感じたのである案内者は墓守の支那人に命じ、椰子の實の未熟なるを割らして、中の液汁を飲つて見よといふ。そして、この液汁は滋養に富んでゐるもので、土人は此液で渴を醫すると云ふ、無闇に勧めるので、予は率先して、一三口二三口飲んで見る、酸味があつてサイダーのやうだが、皆胸持が悪いとて唾を吐く。自動車は一時間五圓だ、時はれ金だと言等六人組の會計係の内田君が叫んだので、再び自動車を驅けて樞要なる街路を見物して歸宿する。時に五時十分前。日本人旅館も此地が最後だとの事で、今夜宿泊と決定し、日本料理の晚餐に向ふ。この家も亦真正の日本米を持たず、蘭貢米なので、慣れぬ口には極めて不味かつた。南京米より劣つてゐると思つた。夜市街を散歩し十二時就寢の段さるや「床が少い故、お氣の毒だが一つの床に二人宛に頼み申す」と云ふ、野郎の添寝は眞半だ床板の上に日本流に眠る者と二派に分れ一夜を明かす。

▲九月五日 晴、八時起床、十二時のランチで本船へ歸らんとし、朝食後、知己へ繪葉書を二十枚餘り書く、巾々骨が折れた。新嘉坡では黒ん坊が多い顔色は黒いが、日本人に似た顔付をしてゐる。その中で目の玉の大きい黒ツ光りの身体をしてゐるのは、印度人ださうか、兩者とも裸体であつて、頭には色々の縞模様ある布片を巻き、腰から下部も亦同様ふ片布で巻てゐる。

土人の商賣人は英語を話すが、馬來語を知つて居らなくては動きが取れぬ。香港迄輻の利いてゐた日本貨幣も此の地では臺なしだ、日貨一圓が香港金八十錢、紙幣が八十五錢する、銀貨は偽造がある云ふので、五錢方安いのださうか、英貨すら八十五錢だ、一寸不思議に思はるゝ。繪葉書一枚が四錢五錢切手が三錢、驚くほど安いのは果實である。上海さ云ひ、香港さ云ひ、又此の地さ云ひ、自動車、人力車、馬車の多いのにはいづれも驚いた、テク／＼歩いてゐる手招で勧誘する、人力車夫は支那人の一手販賣で、車は二人乗である。そして一人乗でも二人乗でも賃錢は同じだから、餘程變つてゐる。車体は日本からの輸入と云ふことだ。

西を向いても、東を向いても支那人の澤山居るには驚く、本國を忘れて飛び廻るのも惑心はせぬが、供喰に憂身をやつす日本人にも、チト此の邊へ發展しても宜からうと思ふ。いつやら新聞で見た南進論とやらに賛成者の陣笠位にふつて見たい氣がした。聞けば日本人も、男子より女子の方が大いに南進して居て、醜業を營んで居るさうな。醜業でも美業でも構はぬ、日本人が澤山居るを聞くさ、何だか其地を占領してゐる様氣がして心持が宜い。

赤道直下だと言ふから、焦げて死んで了ふかと思ふ内心からぬ處を抱いてゐたが、來て見るさ左程にもない、少し熱いと思ふと雷公さんの先き振があつて、驟雨沛然として到るから、暑熱が忽ち去るさといふ鹽梅である。草木の綠飽迄濃く、植物園の如きは萬花紅白妍を競ひ美を争うてゐる、そして、種々の鳥が絶間なく囀つてゐて、恰も日本の春の如き趣きがあるから、此地の氣候と景色に心から惚れ／＼した。上海や香港はすたれても此地は將來益々發展するだらうと思ふ。

● 山岸佑氏通信

(近藤清吾氏宛)

氏は四十二年度卒業金澤病病佐々木内科に研究後同生病院に奉職せられ再轉して今は千葉縣北條病院内科に敏腕を振るる

拜啓梨の礫の音沙汰一つふき大兄の處より突然の御芳墨、取る手遅しと讀み下せば何日と變らぬ温き御心にはつく／＼嬉しく感ぜられた、小生よりも以外の御無沙汰、今日は明日はさぐ／＼して居る内に自分は都を去り誠に忙はしき生活に入りてより無禮さは知りつゝ失禮して居る、然し辨解は是位で止さう。(中略)

各尿検査及糖尿病に對して概括的觀察を聞せ給へ、血液病の方は如何なる形勢かれ、久しく都に遠かり居りし爲め聞くもの皆新しかる可しと思はれるが田舎の醫者の頭へ注入して呉れ給へ、糖尿病に「トリプシン」が用ひられるさ、雜誌に見えたが御使になりますか、醗酵素治療が大分進んで來た様だが田舎では使用する機會もなし經濟も許さぬ、六百六號は數回注射した。十二圓注射料として取る、利益があるれ、靜脈内注射は未だやらぬが其内にやつて見たいと思つて居る。

東京の病院かれ。東京では比較的小さな病院でも割合に新しき事を遣る、新藥も何時でも使用出来る、意外に思ふ位だ、が然し何れの病院でも恐ろしく金取主義のやうに思はれる、實際金の要る事は随分要る、而して取れる事と随分取れる、自分のやうな陣笠の又陣笠でも思つたよりは余收がある、又東京では所謂大家に接する機會があるので元と利益の一つだれ、氣がくふるれ。

北條病院では女學校の校醫をして居る、僕は時々行く學生も來る、田舎の女學生は質樸だれ。急いて出ふくもよいから善い東京の病院を探れて一度は來て見給へ、善い物も見られる。松原博士は名聲益々噴々の由自分等迄

(通信)

肩身が廣く思ふ、博士は近時随分出來たが自分等は毛頭そんな望もないが、兄等一番奮發してはどうか、佐々木先生は益々御健勝の趣き慶賀の至りです。林先生にも御無沙汰のみにして居るから宜ろしく云つて呉れ給へ。梶川兄へも、松村君の細齒の方はどうです、研究室時代の御話で彼の當時の事をうぐる追想される。君のライスカレーは相不變盛んですか、二人前を行る勇氣があるかれ、ピンポンは發達しましたか、御自慢の琵琶歌は近頃う鳴るかれ、高尙でよいね、序に金澤名物の謠曲も少しく練習したらどうか、それから御鬚が生えたかれ、山本君の開業振りはどうです、發展を切に望む、大に應援しやり給へ。少し御願ひ仕度い事がある、自分も頼まれたのであるが面倒臭いから次便にでも御願する。

思ひ出すのは學生時代の樂天生活と研究室時代の吞氣時代である、何時思ひ出しても楽しく又愉快に感ぜられるね。山本君も歸澤せられたから自分も行つて五人で浩然の氣を養ひたいやうな氣がする。連絡として昔の興趣が湧いて來るので名殘は盡きぬが此處で擲筆することにする、時節柄幸に御自愛あらんことを關君は未だ歸られぬかれ。歸つたら宜ろしく願ひます拜具

● 春山盛道氏通信

(近藤氏宛)

四十二年度卒業、目下函館病院内科に奉職謹啓時下初秋の候愈々御健勝御研究の事と遙察仕候其後は意外の御無音、申譯無之候、小生昨年五月に當病院内科醫員として赴任以來碌々消光罷在候間乍他事御安心被下度候、時々十全會雜誌により同窓諸君の消息を得懷舊の情に堪へず候、錦地には同窓諸兄の止まるもの未だ多く時々の御會合、さては御研究誠に羨しき次第に候、當院は外科(院長醫學士)内科(醫博)婦人科(醫學士)の三部長を除きては醫專八名の醫員を有し就中仙臺、千葉田

(通信)

にて金澤出身は小生一人にて稍々心寂しく感ず居り候、されど當市開業中
母校出身のもの六名も有之、時々樂しき會合も開かれ候(中略)
末筆ながら諸先生初め松村、丸山、關諸兄に宜ろしく御鶴聲願上候敬具

* * * * *

外國雜誌報

●スピロヘーテの純培養

島峯學士は前年來ブレスラウ大學衛生教室に在りてプアイフェル教授の指
導の下に齒牙「スピロヘーテ」の培養法に苦心されつゝありしが今春四月
ドレンステンに於ける齒科學會に於て其成功せる培養を報告して大に喝采を
博したる由に傳聞せしが更に同法を敵毒「スピロヘーテ」に試みて數月の後
遂に純培養を得られたる趣あるが當時同學士が熱心研究の模様を承知し居
らるゝ土肥博士の許に贈られたる私書の中より之に關する事項を左に轉載
すべし

(前略)「ジロリス、スピロヘーテ」は其後漸くに小生の「ネーヤボーデン」
より盛に發育致、久しく混合發育の有様に候處壹週間前遂に「ラインク
ルツール」を發見し衛生教室のシエルレル氏并に皮膚教室のブルツク氏
其他の諸君に御覽に供し承認を得候小生も旅先きを急ぎ候に付き是れに
てまづ仕事のきまりをつけ自分の専門外の事には成る丈け渡らぬ事に致
度と存候もさく「ツアーンスピロヘーテ」の培養が主眼に候事にて其

「ネーヤボーデン」に所謂「ジロリス、スピロヘーテ」が發育するか、せぬ
かの問題に有之候事故是にて私の興えられたる仕事は解決せられたるを
奉愚考候に付きブルツク氏の好意により猿を此後使用する事は他の御方
にゆつり申べく候ミューレンスより度々の書狀にて「ツアーン、スピロヘ
ーテ」の事に先づ公表せよとの勧めにつき取り敢えずそれに取りかゝる
次第に御座候プアイファア教授も殊の外に喜ばれ本懐の至りに御座候
ブルツク氏は(中略)今頃は目のあたり御覽に供せし事故先生ドンケル
エルドにて見るや否や「ドンナエツター、アーバーコロツサル」と呼び
居られ候實際非常の繁殖にして密に「ネーヤボーデン」に食ひ込み盛に蛇
的運動を行ひ居る有様は見事にて御目に懸け度程に御座候(下略)

八月廿九日

微 拜

元來「スピロヘーテ」の培養はミューレンス氏千九百六年に「スピロヘ
ーテ、デンチウム」(齒牙「スピロヘーテ」)を相成功せしも純培養からず其後
セルセツスキー氏敵毒「スピロヘーテ」を培養せしも是亦混合培養にて尋
てミューレンス氏がセルセツスキー氏法を改良して純培養を得之を「ブタベ
スト萬國醫學會に於て報告せしも一時偶然の出來事に過ぎざりしは遺憾ふ
りき然るに今度在米の野口博士が敵毒「スピロヘーテ」の純培養法を報告
し今之と同時に島峯學士の吉報を得たるは眞に我國學界の爲に悦ばしき極
みふりさ土肥博士は語られたり。(日本醫事週報抄)

●獨逸大學の學生數

本年夏學期に於ける獨逸大學々生總數は、
五萬七千二百三十人其中外國人四千五百十九人あり其外國人中に米國人二
百九十二人、露國人百七十六人、亞弗利加人二十人、歐洲人六人あり、以
上は歐洲外より來りし者あるが、歐洲外中にては露國人最も多數を占め二
千四十人を算し、奧國人七百四十人、瑞西人三百十人、英人百五十七人ふ
り。上記外國人中醫學を專修する者は千八百二十二人、齒科二十一人、藥

學十人ありといふ。

●カール氏の細胞体外發育●

カール氏(米國紐育市ロツクフェーラ氏醫學研究所員)は去八月三十日伯林外科教室講堂に於て人體組織の細胞を体外に於て發育せしむる實驗をふしたり。培養器としては普通の血清培養基を用ひ全氏は當日動物の甲狀腺、皮膚、脾臓、腎臓細胞の体外發育を示説せり。尙此の培養によれば鼠癌組織細胞は普通の健康細胞に比して其發育甚だ速ふりといふ。

●維納癌研究會●

全會は全市の富豪ミツテルマイヤ夫人より百万「クローン」の寄附を受け早速百人の癌患者を収容し得べき病室と猩紅熱患者を収容すべき病室を建築することになりたり。毎常ながら歐米富豪の美舉には感心の外あり

●グラウキッツ氏逝去●

血液病理學にて有名なる伯林の全氏(Gey)は去八月白玉樓中の人とあられたり。全氏は早くゲルハルト氏に親炙して現にシヤロツテシブルグ市立病院長として有名なる人にて其血液病理學書は普く醫學者間に愛讀せられ既に二版を發行せり

●シンブソシ氏の百周年●

『クロロホルム』麻醉創始者ゼムス・ヤング・シンブソン James Jung Simpson は一八一年七月七日に死亡し丁度本年にて百年目とありたり

* * * * *

(醫校雜報)

醫校雜報

●醫學校卒業業者

本年も大學初め各醫學專門學校とも、學年試驗を終り、何れも近く卒業式を舉行し、新醫師を社會に供給する事とありたり。即ち本年卒業豫定數、及昨年の卒業數を比較すれば實に左の如し。

校名	本年卒業業者數	昨年卒業業者數	比較増減
▲東京醫科大學	一二七	一二七	減一二
▲京都醫科大學	七二	七九	同七
▲福岡醫科大學	九六	九四	増二
計	二九五	二九九	差引減四
▲千葉醫專學校	一一七	一一一	増六
▲仙臺醫專學校	一〇三	一〇五	減二
▲岡山醫專學校	九七	一〇九	同一二
▲金澤醫專學校	一〇八	九九	増九
▲長崎醫專學校	一〇八	九三	同一五
▲大阪高醫學校	八九	八八	同
▲京都醫專學校	一一四	一〇八	同六
▲愛知醫專學校	一一四	一二一	減七
▲慈惠會醫專	一〇二	一〇四	減二
▲熊本醫專學校	一〇二	六六	同三六
計	一、〇五四	一、〇〇四	差引増五〇

(叙任及辭令)

總計 一、三四九 一、三〇三 差引増 四六

即學校卒業の醫師は昨年よりも五十二名多く供給されしあり。併し増加は専門學校卒業者に於ては大學卒業者に於ては却つて減少せるあり。大學の卒業者が爾く減少せるは、志望者減少せしにあらで、寧ろ高等學校第三部收容数を控へたるが爲めあり。若し當局者にして今後高等學校への收容数を増加せば、大學卒業者数も今後益々増加せしめ定員三百十名ならしむるを得べきあり。又醫學専門學校に於ては五十六名を増加せり、此内官立の醫學學校にて増加せるは僅かに十六名あり即ち千葉、金澤、長崎の三校は増加せるも、仙臺岡山の二校は減少せるあり、而かも此の増加も三年後に減少とあるべし。蓋し官立各校とも收容人員数は從來百十名平均ありしを、本年度より百名平均としたるが爲めあり。官立専門學校が收容人員を減少せし所以は學用患者が不十分といふにあり

次に開業試験は如何といふに、昨年度の及第者数は四百五十四名にして、本年は臨時と第一回との二回の試験のみにて既三百十名の及第者あり、此模様にては、本年の及第者は昨年に比し數割を増加する事あるべし。是れが増加と言ふ迄も、試験廢止期の迫り來りしが爲めにして、試験廢止後は全然學校卒業者のみによりて、充ぜざる可からざることは言ふ迄も止く、大學の卒業者数は今日より注意して、尙ほ増加せしむることに努力せしめざるべからざる必要ありといふべし。

更らに學校卒業者と醫師数の増減に就て見るに、昨年度に於て死亡廢業等により内務省の醫籍より採消されしものは九百六十餘名ありき、然るに新醫師は昨年に於て、學校出身者千三百三名、開業試験及第者四百五十四名にして、新醫師数は減少せし醫師数に比し非常に多し、即ち差引して約八百名の増加ありとす。又た本年は去六月迄に内務省の醫籍より抹消されしもの四百四十八名にして例年の數に比せば、寧ろ減少し居れり、故に本年も亦昨年と大差なく、醫籍より除去せらるゝもの即ち醫師の減少するは千

名以内あるべきに、學校卒業者は千三百五十五名あり、試験及第にも亦本年第一回と臨時との二回の試験のみにて既に三百十名ありて本年内にて五百名以上の及第者を見る可ければ、合せて新醫師は千八百名以上に達すべく、差引しても本年内には八百名以上の醫師を増加する譯あり。醫師の増加の勢は非常の高度に達せりといふべし。爲政者は醫師の過不足を考察して醫育機關の設備を加減すべきか、或は又た醫師の過不足には頓着なく志望者あるに委せて出來得る丈け醫育機關を擴張し、醫師の自由生存競争に委して可ある可きか等は、大に議論のある事たるのみか、人口に比し幾許の醫師数を適當とす可きかへ尙ほ容易に決定す可らざる問題あり、併し近來盛んに醫師生活難の聲あり、而して近數年の醫師増加数は實に以上の如く驚く可き多數に上り居れり、是大に研究すべき問題なるべし。(醫海時報抄)

叙任及辭令

* * * * *

● 内閣

明治四十四年九月二十三日附

陸叙高等官三等

全	正六位勳六等	村上庄太
全	正六位勳六等	上田計二
全	正六位勳六等	宮田篤郎

陸叙高等官四等
陸叙高等官五等
陸叙高等官六等
全

從六位勳六等 高山基重
正七位 阿部莊二
從七位 加藤靜雄
從七位醫學博士 松原三郎

●陸軍省

休職被仰付 (八月三十一日) 陸軍三等軍醫 宮村誠一郎 (四年)
陸軍一等軍醫從六位勳六等 高岡榮 (三年)
任陸軍三等軍醫正 (九月十五日)
補步兵第三十六聯隊附兼鯖江衛戍病院長
輜重兵第九大隊附陸軍一等軍醫 小島顯治 (六年)

休職被仰付 (十月十二日)

●海軍省

豫備被仰付 (九月廿二日) 海軍大軍醫 堀井吉平 (三年)

●石川縣

九月九日附 醫員拜命 外科一部勤務(十二給俸) 巨田政信 (四年)
醫員拜命 外科二部勤務(十二給俸) 天野隆義 (四年)
九月三十日附 事務ノ都合ニ依リ醫員ヲ免ズ
休職金澤醫學專門學校教授 林篤
林篤

金澤病院醫員ヲ囑託ス
年手當五百四拾圓給與

入 事

●猪本彦助氏 全氏(三十七年度)は此迄長門國長府の海濱院に奉職中なりしが此度辭職して下關市宇入江町六十五番地に開業せられたり

●乾 一夫氏 全氏(四十一年度)卒業後上京駿河臺井上眼科病院に研究次きて四十二年四月長野縣佐久郡野澤町共濟病院に轉勤せられ同十月横濱市南太田町に住せられしが今年八月横濱市真砂町三丁目三八に眼科專門にて開業せらる

●山崎太一氏 全氏(四十一年度)熊本縣警察醫の氏は去月二十六日出發二十九日着京直に内務省第二回『トラホーム』講習會に出場

●駒田 一正氏 全氏(四十一年度)は是迄福井縣武生町に於ける私立武生病院に奉職中ありしが此度辭職して岐阜縣立病院に奉歸せられたり

●那谷與一氏 (四十三年度)卒業後松原博士の下に研究本春大久保腦病院へ轉ぜられ山田博士の下に勉學中の所本月一日休暇を得て歸省、展墓の上當神經科醫局等を訪れ十日八時當地出發上京せられたり。

●居所不明會員名簿

左記の諸氏は轉居せられたる後其轉居先きを本會へ通知せられざる爲め雜誌を郵送するも配達不能にて戻送せられ候に付左記諸氏の現居所を知らるゝ諸君は御手数ながら何卒本會へ御一報下され度此段願上候

井 上 元 (四〇年卒業) 池 谷 運 平 (四〇)

(會告)

原田悅五郎(四〇)	西澤寬治(三八)
西村順八(三九)	新名 蕙(三九)
戸井源吾(三九)	小 原 貢(三五)
老川雪房(四〇)	柿澤雅一(四〇)
吉田繁次郎(四〇)	瀧澤武藏(四〇)
園崎純次郎(二八)	築山英雄(三五)
村尾左内(三九)	白井順太郎(三七)
内田貞春(四〇)	山中房次郎(四〇)
山崎秋津磨(二四)	松浦啓三(三〇)
松村四郎(三七)	松本文二(四一)
富久尾湊(三七)	伏田金三(三八)
藤井 茂(三九)	駒井定哉(三四)
小林吉五郎(三九)	越田信吉(三五)
小林五佐(三六)	芦澤 昭(三九)
齋藤幸作(三〇)	木下節三(三九)
湯本四郎右衛門(三四)	水口 順(四〇)
澁谷孝慶(三一)	久田 德(三九)
平賀東吾	森岡惣太郎(三五)
森 清 吉(三八)	本 仙太郎(四一)
説田順一(四〇)	仙波昌秋(三七)
鈴木政次郎(三九)	清水義成(四二)
本城熊三郎(三九)	宮崎稻作(三七)
西村貞俊(四二)	西村銀太郎(四〇)
久保襄一郎(三七)	奥山正雄(四一)
水上俊三(三八)	金子精一(三九)
中山富次郎(四二)	莊田芳根(四一)

大井忠三(三九) 小島佐藏(三三)
楠 正之(四一)

會 告

●自明治四十四年九月廿六日校外特別會員會費調書
至全 年十月十六日

金額	期 限	氏 名
金參圓	自四十四年度至四十八年度五ヶ年分	草野佐一郎君
金參圓	自四十四年度至四十八年度三ヶ年分	植西武彦君
金參圓	自四十四年度至四十八年度三ヶ年分	富永富久三君
金參圓	全	湯 爾 和君
金五圓	自四十三年度至四十七年度五ヶ年分	木谷義太郎君
金參圓	自四十四年度至四十四年度三ヶ年分	千田常外君
金參圓	全	寺尾敬三君
金參圓	自四十四年度至四十六年度三ヶ年分	垣 内 昇君
金參圓	全	橋 本 澄君
金參圓	自四十二年度至四十四年度三ヶ年分	上 里 眞 溫君
金參圓	自四十四年度至四十五年度三ヶ年分	武 藤 匡 一君
金參圓	自四十四年度至四十五年度五ヶ年分	小 幡 學 雄君
金貳圓	自四十三年度至四十四年度二ヶ年分	水上佐太郎君
金參圓	自四十八年度至四十八年度五ヶ年分	中 西 島 吉君

哭